

嘉麻市教育委員会 点検・評価報告書

(平成24年度事業分)



嘉麻市立織田廣喜美術館において、絵画の鑑賞授業を受ける熊ヶ畑小学校の児童たち



平成25年9月

嘉麻市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 27 条及び嘉麻市教育基本条例第 7 条の規定に基づき、平成 24 年度の教育委員会の点検及び評価を行いましたことを報告します。

嘉麻市教育委員会委員名簿

平成 25 年 9 月現在

職 名	氏 名	任 期
委 員 長	豊福 眸子	平成 22 年 7 月 4 日～平成 26 年 7 月 3 日
委員長職務代理者	佐竹 正利	平成 25 年 7 月 4 日～平成 29 年 7 月 3 日
委 員	田中 了彩	平成 23 年 7 月 4 日～平成 27 年 7 月 3 日
委 員	辻田 喜美	平成 24 年 8 月 29 日～平成 28 年 8 月 28 日
教 育 長	栗野 良一	平成 22 年 11 月 9 日～平成 26 年 11 月 8 日

目次

1. 教育委員会点検・評価の概要について	1
(1) はじめに	
(2) 点検・評価の導入の目的	
(3) 点検・評価する対象	
(4) 点検・評価の方法	
(5) 結果の取扱い	2
(6) 第2次嘉麻市教育アクションプラン (平成24年度～平成26年度嘉麻市教育振興基本計画)	
2. 教育委員会の取組み	3
(1) 平成24年度教育委員会実施状況	
(2) 平成24年度教育委員会の会議における議案	4
(3) 平成24年度教育委員会の会議における協議	
(4) 平成24年度教育委員会の会議における報告	5
3. 各種学校調査の結果	6
4. 事業別評価結果	8
○重要課題1 少人数指導等による学力向上	12
○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実	16
○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進	35
○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	49
○重要課題5 体力及び運動能力向上の推進	62
○重要課題6 人権尊重精神を育成する教育の推進	69
○重要課題7 市民文化の創造	73
5. 全体評価結果	81
《資料》	84
・ 嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱	
・ 平成25年度嘉麻市教育委員会点検評価委員名簿	

1. 教育委員会点検・評価の概要について

(1) はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）の一部改正及び嘉麻市教育基本条例の制定により、平成20年4月から、嘉麻市教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

(2) 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本的方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な具体的教育行政事務を執行するものです。

このため、事前に教育委員会が立てた基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要がある、教育委員会が地域住民に対する説明責任を果たし、その活動を充実させることが目的です。

(3) 点検・評価する対象

第2次嘉麻市教育アクションプラン（平成24年度～平成26年度嘉麻市教育振興基本計画）の事業を対象とします。

(4) 点検・評価の方法

事業ごとに、目的達成度の観点から自己評価を行い、点検・評価の客観性を確保するために第三者評価を行いました。

第三者評価については、教育委員や現場教員・事務局職員等ではない人で、教育に関して公正な意見を述べることを期待できる人を想定し、議会、PTA連合会、社会教育委員、公民館運営審議会、図書館協議会、織田廣喜美術館運営協議会、スポーツ推進委員、文化財保護審議会より推薦を頂いた方に依頼し評価していただきました。

（点検・評価の流れ）

- ① 教育委員会事務局（担当課）においてその所管する事務事業等を自己評価
 - ② 自己評価の結果について評価の客観性を確保するため、嘉麻市教育委員会点検評価委員を設置し、自己評価に対しての評価
 - ③ 教育委員会は評価委員の意見を踏まえ、教育委員会の会議において最終的な点検評価
 - ④ 議会へ報告
 - ⑤ 議会報告後、速やかにホームページ等で一般公表
- (5) 結果の取扱い

この点検・評価においては、事業ごとに4段階【A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要】で評価し、評価の高い事業については、引き続き実施し、評価の低い事業については課題や問題の解決を行うと同時に事業の見直しについて検討していく予定です。

(6) 嘉麻市教育行政の基本理念

嘉麻市教育委員会では、嘉麻市教育基本条例第2条の基本理念に基づき、嘉麻市教育行政を実施していきます。

嘉麻市教育基本条例(抜粋)

(基本理念)

第2条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び地域社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な市民の育成を期して行わなければならない。

2 市民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

3 家庭、地域住民及び市は、前2項に定める基本理念の実現に努めるものとする。

(7) 嘉麻市教育振興基本計画

「第2次教育アクションプラン（平成24年度～平成26年度）」

嘉麻市教育委員会では、教育行政の基本理念に基づき、嘉麻市における教育振興のための施策に関し、基本的な事項を定めた「第2次教育アクションプラン」を策定しました。

本市教育委員会は、学校教育、社会教育、文化・芸術の各分野について、7つの教育施策を柱とし、その実現に向けて施策を推進しました。

1. 少人数指導（1学級を30人以下の児童又は生徒で編成する等の指導形態をいう。）等による学力向上
2. 個性又は能力を育成する学校教育の充実
3. 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
4. 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進
5. 体力及び運動能力向上の推進
6. 人権尊重精神を育成する教育の推進
7. 市民文化の創造

今回の点検・評価では、この7つの施策に基づく事業を対象とし点検・評価しました。

* 第2次嘉麻市教育アクションプラン（平成24年度～平成26年度 嘉麻市教育振興基本計画）は以下のホームページにてご覧いただけます。

「嘉麻市教育アクションプラン」

<http://www.city.kama.lg.jp> ・ ・ ・ 行政情報（嘉麻市教育委員会）

2. 教育委員会の取組み

(1) 平成24年度教育委員会実施状況

教育委員会は教育長を含む5名の委員で構成され、会議の実施については、原則、定例会が毎月1回、また、臨時会は必要に応じて開催し、教育行政に関する重要事項等を適時適切に慎重に審議しています。教育委員会は嘉麻市教育委員会定例学校訪問実施要項に基づき年次計画で定例学校訪問を実施しています。小中学校を訪問することで、学校教育現場の状況を確認することができ、教育委員の立場から要望など意見を述べました。

◆平成24年度教育委員会開催実績

・ 定例会	12回		
・ 臨時会	2回	計	14回

◆平成24年度嘉麻市教育委員会学校訪問の実施状況

○定例学校訪問（4校）

嘉麻市教育委員会が各学校における学校経営の諸課題を把握するとともに、改善に向けた方向性について協議及び所要の指導・支援を行うことにより学力を向上させる取り組みです。

実施日：	平成24年10月11日（木）	学校名：	碓井中学校
	平成24年11月8日（木）		上山田小学校
	平成24年11月14日（水）		熊ヶ畑小学校
	平成24年11月15日（木）		嘉穂中学校

○授業充実学校訪問（2校）

筑豊教育事務所が、各学校の人的管理及び運営管理の実情をもとに、授業公開を通して、学力向上に向けた取組の指導・支援を行います。

実施日：	平成24年9月20日（水）	学校名：	山田中学校
	平成24年10月25日（木）		下山田小学校

○研究指定・委嘱校研究発表会（3校）

嘉麻市教育委員会が学校教育の充実と発展を目指して取り組む学校を指定委嘱し、学校教育の充実振興に寄与する取り組みです。

実施日：	平成24年11月2日（金）	学校名：	宮野小学校
	平成24年11月9日（金）		山田中学校
	平成24年11月22日（木）		稲築西小学校

(2) 平成24年度教育委員会の会議における主な議案

番号	議 案	開催日
1	嘉麻市教育振興基本計画調整会議設置要綱の一部を改正する要綱について	4/2
2	嘉麻市立嘉穂小学校開校準備について（諮問）	5/1
3	嘉麻市立学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について	5/1
4	嘉麻市文化財保護審議会委員の委嘱について	5/1
5	嘉麻市教育委員会教育委員長の選任について	6/4
6	嘉麻市教育委員会教育委員長職務代理者の選任について	6/4
7	嘉麻市私立幼稚園就園奨励費補助金交付規則の一部を改正する規則について	6/4
8	嘉麻市学校評議員の委嘱について	6/4
9	嘉麻市学校関係評価委員の委嘱について	6/4
10	嘉麻市立図書館協議会委員の委嘱について	7/3
11	嘉麻市教育委員会職員被服等貸与規程について	7/3
12	嘉麻市成人式実行委員会設置要綱について	7/3
13	嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱の一部を改正する要綱について	7/3
14	嘉麻市成人式補助金交付規程の一部を改正する規程について	7/3
15	嘉麻市教育委員会教育委員長職務代理者の選任について	8/29
16	嘉麻市教育委員会点検・評価報告書（平成23年度事業分）について	8/29
17	嘉麻市教育委員会県費負担教職員の職務に専念する義務の免除に関する規則の一部を改正する規則について	10/2
18	嘉麻市少人数指導特別教員規程の一部を改正する訓令について	10/2
19	嘉麻市立小・中学校の少人数指導の実施に関する規則の一部を改正する規則について	11/6
20	嘉麻市少人数指導特別教員規程の一部を改正する訓令について	11/6
21	嘉麻市立小中学校英語教育語学指導員派遣業務契約に関する競技審査会設置要綱について	2/5
22	嘉麻市奨学資金条例施行規則の一部を改正する規則について	2/5
23	嘉麻市立学校閉校記念事業補助金交付規程について	3/25
24	嘉麻市公民館類似施設等補助金交付規則の一部を改正する規則について	3/25
25	嘉麻市社会活動等助成補助金交付基準規程及び嘉麻市コミュニティ施設特別整備事業補助金交付規程を廃止する告示について	3/25

(3) 平成24年度教育委員会の会議における協議

番号	協 議	開催日
1	「2012年非核と平和のつどい in 福岡」後援依頼について	4/2
2	映画「ひまわり」上映会の名義後援について	2/5

(4) 平成24年度教育委員会の会議における報告

番号	報 告	開催日
1	平成24年度 嘉穂中学校通学自動車運行計画について	5/1
2	平成23年度嘉麻市立中学校卒業生の進路報告について	5/1
3	生徒指導上の諸問題に関する実態調査について	5/1
4	嘉麻市嘉穂小学校開校準備審議会委員任命に関する職務代理について	6/4
5	嘉麻市学校給食運営審議会委員任命に関する臨時代理について	6/4
6	嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会委員任命に関する臨時代理について	6/4
7	平成24年6月議会上程議案について	6/4
8	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	6/4
9	嘉麻市子ども読書活動推進計画について	6/4
10	嘉麻市社会教育委員任命に関する臨時代理について	7/3
11	嘉麻市公民館運営審議会委員任命に関する臨時代理について	7/3
12	嘉穂小学校校旗の寄附について	7/3
13	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	7/3
14	嘉麻市教育委員会点検評価報告書（平成23年度事業分）について	8/7
15	嘉麻市スポーツ推進審議会委員の任命に関する臨時代理について	8/7
16	嘉麻市スポーツ推進審議会に対する諮問に関する臨時代理について	8/7
17	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	8/7
18	平成24年9月市議会上程議案について	9/4
19	損害賠償の額を定める専決処分について	9/4
20	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	9/4
21	工事請負契約の締結について	10/2
22	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	10/2
23	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	11/6
24	平成24年12月議会上程議案及び補正予算について	12/3
25	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	12/3
26	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	1/8
27	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	2/5
28	嘉麻市立嘉穂小学校の校訓について	3/4
29	嘉麻市立嘉穂小学校施設整備の進捗状況について	3/4
30	平成25年3月議会上程議案について	3/4
31	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	3/4
32	嘉麻市地域活動指導員規程の一部を改正する告示について	3/25
33	嘉麻市立図書館資料除籍要綱の制定について	3/25
34	嘉麻市立図書館資料団体貸出要綱の一部を改正する要綱について	3/25

35	嘉麻市特定事業主行動計画について	3/25
36	平成 25 年度教職員の人事（内示）について	3/25

3. 各種学校調査の結果

嘉麻市内各小中学校における、特別支援介助員・学級支援員等の配置状況をまとめました。平成 23 年度と比べ、特別支援員や介助員は 3 名増員、特別支援教育補助員は 3 名増員、少人数指導特別教員・複式学級解消指導員の配置については 5 名増員し、児童・生徒たちの学習支援環境を充実させました。

○小中学校（全 17 校）における、特別支援介助員等の配置数

NO	点検・評価項目	内 容	H23	H24
1	特別支援学級介助員・特別支援学級支援員の配置	肢体不自由な児童生徒の介助や特別支援学級に在籍する児童生徒の支援を行うために市費で雇用。	10名	13名
2	特別支援教育補助教員の配置	普通学級に在籍している特別支援の必要な児童生徒の指導等を行うために市費で雇用。	12名	15名
3	少人数指導特別教員・複式学級解消指導員の配置	少人数授業の補助や複式学級における指導を行うために市費で雇用。	23名	28名

次頁では、各小・中学校で行われた、教育課程実施状況及び教育課程編成状況調査結果（No. 1～No. 4）全国学力・学習状況調査結果（NO. 5～NO. 9）を集計し、学校の取り組み、児童・生徒たちの学習状況等について、平成 23 年度と平成 24 年度を併記して比較したものです。

各小・中学校の教育課程実施状況等の結果（No. 1～No. 4）は、小学校では、「発展的学習」において、全小学校で実施している結果となっています。このことは、基礎・基本の定着によって身についた学力を、さらに活用する内容の学習が実施できてきているものと考えます。一方「きめ細かな指導の実施」における分割授業の学校数が前年度と比較して減少していますが、これは嘉穂地区の小規模校は児童が少なく、調査の定義に該当しないため減少したものです。また、中学校においては、全校に少人数授業補助教員を配置していることから、全ての項目において「補充指導」や、「きめ細かな指導の実施」を行っている状況です。

次に、全国学力・学習状況調査の結果（NO. 5～NO. 9）では、小・中学校共に全ての項目で数値の上昇があり、少人数指導授業補助教員等の配置による成果が少しずつあらわれてきているものと考えます。また、本市として取組を進めている「家庭での学習習慣」については、約 5 ポイントの上昇であり、着実に家庭学習が定着してきているものと考えます。さらには、個別支援が必要な児童・生徒に対しての特別支援教育補助教員等の配置も大きな成果をもたらしています。

このような結果から、学習支援環境充実のための、人的配置の充実及び継続を図って

いくことが大切であると考えます。

○小学校 12校 * 学校・児童調査から ()は平成24年度の県・国の平均値

NO	点検・評価項目	内 容	H23	H24
1	読み書き計算等の習熟	基礎的、基本的な知識や技能の徹底を図る時間を設定している学校	12校	11校
2	組織的な習熟の取組	週時程への位置づけを行っている学校	12校	10校
3	発展的学習	教科学習の時間に発展的な学習を行っている学校	9校	12校
4	きめ細かな指導の実施	少人数指導（チームティーチングを含む）を行った学校	12校	11校
	内訳：分割授業	課題別・習熟度別に分割授業を行った学校	11校	8校
	内訳：非分割授業	チームティーチングによる授業を行った学校	11校	10校
5	食習慣	朝食を毎日食べている児童 (県94.7%、国96.1%)	92.4%	92.3%
6	自己肯定感	自分にはよい所があると思う児童 (県75.6%、国76.8%)	66.1%	72.8%
7	家庭での学習習慣	家で学校の宿題をしている児童 (県96.2%、国97.0%)	90.0%	94.8%
8	携帯電話の使用状況	携帯電話で通話やメールをしている児童 (県29.5%、国28.2%)	33.7%	29.5%
9	読書の習慣	家や図書館での1日あたりの読書時間 (県30分、国31分)	29分	35分

○中学校 5校 * 学校・生徒調査から ()は平成24年度の県・国の平均値

NO	点検・評価項目	内 容	H23	H24
1	補充指導の実施(1)	朝や放課後における補充指導の実施学校	5校	5校
2	補充指導の実施(2)	長期休業中における補充指導の実施学校	5校	5校
3	きめ細かな指導の実施	少人数指導（チームティーチングを含む）を行った学校	5校	5校
	内訳：分割授業	課題別・習熟度別に分割授業を行った学校	4校	5校
	内訳：非分割授業	チームティーチングによる授業を行った学校	5校	5校
4	食習慣	朝食を毎日食べている生徒 (県92.5%、国93.6%)	86.0%	89.2%
5	自己肯定感	自分にはよい所があると思う生徒 (県66.1%、国68.2%)	60.2%	61.3%
6	家庭での学習習慣	家で学校の宿題をしている生徒 (県85.2%、国85.7%)	75.7%	80.2%
7	携帯電話の使用状況	携帯電話で通話やメールをしている児童 (県56.5%、国56.3%)	64.1%	57.1%
8	読書の習慣	家や図書館での1日あたりの読書時間 (県25分、国26分)	27分	26分

4. 事業別評価結果

○重要課題1 少人数指導等による学力向上

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)確かな学力向上のための取組みの推進	1	少人数指導推進事業	○			
	2	学校提案型学力向上事業		○		
	3	研究指定校補助事業		○		
	4	学力検証事業		○		

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)個性や能力を伸ばす教育の充実	5	特別支援教育総合推進事業	○			
	6	補助教員配置事業		○		
(2)社会の変化に対応する教育の充実	7	英語コミュニケーション能力の育成事業		○		
	8	情報教育推進事業		○		
	9	情報教育施設整備事業		○		
(3)信頼される教員の確保と研修の充実	10	嘉麻市教育センター研修推進事業		○		
	11	教職員人事配置事業		○		
(4)安心して学べる学校づくりの推進	12	学校防犯体制整備事業	○			
	13	通学対策事業	○			
	14	学校施設維持管理事業	○			
	15	大隈城山校維持管理事業	○			
(5)嘉穂小学校施設整備の推進	16	嘉穂小学校開校準備審議会運営事業	○			
	17	嘉穂小学校建設事業	○			
(6)地域に開かれた学校づくりの推進	18	学校関係者評価事業		○		
	19	学校開放事務事業		○		
(7)小中連携教育への取組み	20	小中連携・一貫教育研究事業		○		
(8)教育の機会均等の促進	21	就学援助事業	○			
	22	奨学金事業		○		
	23	幼稚園就園奨励費支給事務事業	○			

○重要課題3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)道徳性と自立心を養う心の教育の充実	24	道徳教育推進事業		○		
	25	キャリア教育推進事業		○		
	26	ボランティア活動推進事業		○		
(2)健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実	27	学校保健事業		○		
	28	学校給食運営事業	○			
	29	学校給食費算定及び収納事業		○		
(3)家庭・地域・学校における読書活動推進	30	読書活動推進事業	○			

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(4)いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実	31	適応指導教室(れすとぴあ)推進事業	○			
	32	教育相談推進事業	○			
	33	ひきこもり訪問指導員配置事業	○			
(5)家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実	34	地域教育資源活用事業		○		
	35	学社連携融合事業	○			
	36	家庭教育支援事業	○			
	37	青少年健全育成事業		○		

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備	38	社会教育関係団体等育成事業		○		
	39	社会教育関係団体活性化補助事業		○		
(2)学習機会の提供及び学習成果の活用促進	40	社会教育施設整備事業		○		
	41	ボランティア人材バンク事業	○			
	42	生涯学習推進事業		○		
	43	青少年体験活動推進事業	○			
	44	公民館・分館等の連携強化推進事業		○		
	45	分館及び自治公民館等活動費補助事業		○		
	46	コミュニティ活動支援		○		
	47	公民館事業		○		
(3)図書館の利用促進	48	図書館施設管理運営事業		○		
	49	読書活動推進事業		○		
	50	図書館ボランティア養成事業		○		

○重要課題5 体力及び運動能力向上の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)スポーツ推進計画の策定	51	スポーツ推進計画の策定	○			
(2)子どもの体力・運動能力向上の推進	52	ゴールデンエイジプロジェクト	○			
	53	コーチングスキルアップ		○		
(3)スポーツ活動の活性化	54	スポーツコミュニティ創造事業	○			
	55	体育施設管理運営事業		○		
	56	スポーツ大会支援事業	○			
(4)スポーツ大会の誘致	57	スポーツ大会誘致事業	○			

○重要課題6 人権尊重精神を育成する教育の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)学校教育における人権・同和教育の推進及び支援	58	人権・同和教育推進事業		○		
(2)社会教育における人権・同和教育の推進及び支援	59	人権学習推進事業		○		
	60	解放子ども会育成事業		○		
	61	解放学級育成事業		○		

○重要課題7 市民文化の創造

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1)美術に関する創造的活動の推進	62	文化芸術活動推進事業		○		
	63	美術館運営管理事業	○			
	64	企画展事業	○			
	65	美術館ボランティア事業		○		
	66	美術教育普及事業	○			
(2)文化財の保護・継承・活用	67	歴史民俗教育普及事業	○			
	68	文化財保護事業	○			
	69	歴史民俗資料展示・保管施設の管理活用事業	○			

☆点検評価表の見方☆

事業名 (予算・決算)	[番号] 事業名 (課: 係) (予算: 千円 決算: 千円)				
目 的	事業の目的について記載しています。				
事業内容	平成24年度に実施した事業について記載しています。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 平成24年度の課題として挙げた事項等を記載しています。 【課題等への取り組み】 上記の課題について、どのような取り組みをしたか記載しています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性				
	事業の効果				
	事業の効率性				
	【自己評価の根拠】 自己評価に至った理由について記載しています。 評価の指標は、次のとおりです。 A：期待通り B：概ね期待通り C：課題あり D：事業の見直し要				
今後の方向性	この事業の目的を達成するための方向性について記載しています。				
H25年度の課題	平成25年度の課題について記載しています。				
『評価委員の意見』					
点検評価委員会議でいただいた、評価委員の意見を記載しています。					
教育委員会評価			評価委員の意見を踏まえ、教育委員会が評価しました。		

○重要課題 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力向上のための取組みの推進

事業名 (予算・決算)	[1] 少人数指導推進事業（学校教育課：教務係） (予算： 113, 829千円 決算： 111, 133千円)				
目 的	少人数指導（1学級を30人以下の児童又は生徒で編制する等の指導形態をいう。）により、より個に応じた指導を行うことによって、生徒指導の充実、学力を向上させるよう努めます。				
事業内容	小学校15名、中学校13名の少人数指導特別教員を配置し、小・中学校の少人数指導を推進しています。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 福岡県や他の市町村でも講師を任用しており、よりよい人材を確保するためには、労働環境等の更なる整備が必要です。 人材確保の面で、退職教員の活用も行うが、若者の雇用の場も広げる必要があります。 【課題等への取り組み】 県費任用の講師に準ずる労働環境を整備し、よりよい人材を確保するように努めています。若年講師を積極的に任用しています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 少人数指導の実施により、きめ細かな指導が充実することで、基礎・基本の学力の定着が図られるとともに、問題行動も減少し、落ち着いた学校生活が送れるようになりました。4月に実施したNRT学力テストでは、学力平均偏差値が昨年に比べ1.2ポイント上昇し、県平均まで0.2ポイントまでせまっている等、成果は上がっています。また、全国学力・学習状況調査の結果では、児童生徒の自尊感情も高くなっており、学力向上の兆しが見えています。 嘉麻市教育センター主催の研修会の実施や退職校長を指導主事として任用し、若年講師の指導にあたるなど、講師の指導力向上に努めました。				
今後の方向性	小・中学校全学年30人以下の児童生徒で編成する等の指導形態による少人数指導を実施し、生活面での落ち着きが学力向上につながるよう、今後も個に応じた指導を充実させ、嘉麻市の平均正答率を毎年1ポイント上昇させ、県平均を上回れるように努めます。				
H25年度の課題	少人数指導の実施により、市費による若年の少人数指導特別教員が多くなっており、授業力・指導技術の向上を図るための取り組みが必要となります。				
『評価委員の意見』 ・ 少人数学級での学力向上は評価できる。					
教育委員会評価		A			

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力向上のための取組みの推進

事業名 (予算・決算)	【2】学校提案型学力向上事業（学校教育課：教務係） (予算：3, 6 0 0千円 決算：3, 3 9 3千円)				
目 的	学校提案による教育課程外の事業を実施することにより、各学校・地域等の活性化を図り、学力を向上させるよう努めます。				
事業内容	学校提案による個に応じた学力向上モデル事業、学校外補習学習推進事業、学校創意工夫事業を小学校10校、中学校5校で実施しました。				
H24年度の課題と取組み	【課題等】 全国学力・学習状況調査で、嘉麻市の平均正答率は福岡県平均より低く、基礎学力が、定着していない児童生徒が多く見られます。そのため、学力定着度に応じた事業を実施するなど、児童生徒の実態に応じた取り組みを継続して行う必要があります。 【課題等への取り組み】 対象校を13校から15校に増やし、学校外補習学習等の学力向上事業を実施しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 学校提案型学力向上事業の対象校を13校から15校に増やし、夏季、冬季休業中や放課後に、卒業生や地域ボランティアによる補習学習を行いました。小学校では基礎・基本の習熟を図り、中学校では3年生を対象に進路実現を目指した補習学習を行いました。基礎・基本の定着が図られる一方、学生ボランティア等から学習の仕方や心構えを聞くことにより、受験を迎える生徒たちの学習意欲の喚起につながりました。 また、宿泊合宿を行い、自然体験や社会体験活動等を通して、学力・体力の向上及び学習意欲の形成を目指す教育活動を行いました。				
今後の方向性	学校提案による、「個に応じた学力向上モデル事業」、「学校外補習学習推進事業」、「学校創意工夫事業」を通して、嘉麻市の児童生徒の学力向上に努めます。 また、基礎学力の定着だけでなく、個々の学力定着度に合わせた取り組みを行うことで、市全体での学力向上の機運を盛り上げていきます。				
H25年度の課題	全国学力・学習状況調査で、嘉麻市の平均正答率は福岡県平均より低く、基礎学力が定着していない児童生徒が多く見られます。そのため、学力定着度に応じた事業を実施するなど、児童生徒の実態に応じた取り組みを継続して行う必要があります。				
『評価委員の意見』 ・補修学習期間を終了した後も、継続的な取組みを考えてほしい。					
教育委員会評価		B			

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力向上のための取組みの推進

事業名 (予算・決算)	[3] 研究指定校補助事業（学校教育課：教務係） (予算：2, 100千円 決算：2, 012千円)				
目的	研究指定事業を通して、教職員の実践的指導力の向上を図るとともに、一人一人の資質の向上に向けた研修等への参加支援体制の整備を図ります。				
事業内容	研究指定校を2ヵ年事業として、毎年小学校2校、中学校2校を委嘱し、2年次に研究発表を行いました。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 校内研究を計画的・継続的に行い、発表会後は継続的・発展的に進めていく必要があります。 【課題等への取り組み】 教育センターに指導主事が配置されたことにより、指導主事を活用した授業改善や校内研究の活性化が図られました。また、校内研究が活性化され、研究発表を行うことで教職員の実践的指導力の向上が図られました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 教育センターに指導主事が配置されたことにより、指導主事を活用した授業改善や校内研究の活性化が図られました。 校内研究が活性化され、研究発表を行うことで教職員の実践的指導力の向上が図られました。				
今後の方向性	発表会後の学校へ、引き続き校内研修による授業改善の意識が高まるように働きかけを行うよう、促していきます。				
H25年度の課題	発表会後の学校へ、教育論文の提出を求め、指導主事派遣を要望するよう促します。				
『評価委員の意見』 ・研修の積み重ねが、教職員の指導力を高める第一歩だと思います。					
教育委員会評価		B			

○重要課題 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力向上のための取組みの推進

事業名 (予算・決算)	[4] 学力検証事業（学校教育課：教務係） (予算：6, 240千円 決算：5, 872千円)				
目 的	児童生徒の実態を把握・分析し、課題を明らかにして学校内の組織的な取り組みの改善を図り、自ら学び考えるなどの確かな学力を育む教育の充実を図ることです。				
事業内容	学力実態調査を実施し、嘉麻市内の児童生徒の実態を把握し、分析を行いました。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 学力実態調査から課題を整理し、学期ごとに取り組みの評価を行い、全小・中学校において、次への改善に繋いでいく必要があります。 【課題等への取り組み】 学力実態調査を市内のすべての小・中学校で実施しました。また、分析ツールの活用についての教務主任研修会を実施し、各学校の学力実態の分析を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 嘉麻市の平均点は福岡県の平均点を下回っており、今後も組織的、継続的な取り組みが必要です。しかし、学力実態調査から課題を整理し、学期ごとに取り組みの評価を行い、次への改善に繋いでいる学校が増え、学力向上に向けた組織的な取り組みが見られました。 「家庭学習のすすめ」を各家庭に配布し、家庭学習の定着を図りました。				
今後の 方向性	継続的に、児童生徒の実態や学力を正確に把握・分析し、課題を明らかにして学校内の組織的な取り組みの改善を図ります。				
H 2 5 年度 の課題	学力実態調査から課題を整理し、学期ごとに取り組みの評価を行い、全小・中学校において、次への改善に繋いでいく必要があります。				
『評価委員の意見』 ・検証後の取組みを行うことは、必要なことである。					
教育委員会評価		B			

○重要課題 2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(1) 個性や能力を伸ばす教育の充実

事業名 (予算・決算)	[5] 特別支援教育総合推進事業（学校教育課：教務係） (予算：2, 270千円 決算：2, 270千円)				
目 的	保育所（園）・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における特別支援教育を総合的に推進することです。				
事業内容	特別支援教育連携協議会の開催、巡回相談の実施等、発達障がいを含む障がいのある幼児児童生徒を支援しています。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 子どもの教育や就学についての専門的な知識を持ち、連絡・調整、情報収集等を行う職員の配置や、子どもの成長記録や生活の様子、指導内容に関するあらゆる情報を記録し、必要に応じて関係機関が共有できる相談支援ファイル等の作成が必要です。 【課題等への取り組み】 早期支援コーディネーター（臨床心理士）の配置、関係機関が情報を共有できる相談支援ファイルを作成し、平成 25 年度から活用予定です。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 教育委員会、健康課、こども育成課が連携していくことで、就学前から中学校までの段差のない、教育活動が展開されるようになりつつあります。 早期支援コーディネーター（臨床心理士）の配置、関係機関が情報を共有できる相談支援ファイルの作成、リーフレットを全戸配布し、特別支援教育の啓発を行う等、早期からの支援体制構築に取り組んでいます。 また、巡回相談を実施し、専門的な指導助言を受けることで、よりきめの細かい指導が行われるようになってきています。				
今後の 方向性	小・中学校だけでなく、就学前においても巡回相談を実施していきます。 嘉麻市特別支援教育研修会を実施したり、リーフレットを活用したりして、特別支援教育の基礎的な理解を図るとともに、特別支援教育についての啓発を行っていきます。				
H 2 5 年度 の課題	早期からの支援体制構築のためには、相談支援ファイルの活用、関係機関の連携、特別支援教育の啓発が必要であり、特別支援教育連携協議会を中心に、支援体制の構築を進めます。				
『評価委員の意見』 ・学校教育課、健康課、こども育成課が連携して、早期からの取り組みを行っていることは、大変評価できる。					
教育委員会評価		A			

○重要課題２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(1) 個性や能力を伸ばす教育の充実

事業名 (予算・決算)	[6] 補助教員配置事業（学校教育課：教務係） (予算：55, 812千円 決算：54, 118千円)				
目的	特別支援教育充実のための補助教員、介助員、支援員を配置し、一人一人のニーズに応じた教育条件の整備を図ります。				
事業内容	特別支援教育補助教員15名、特別支援学級介助員2名、特別支援学級支援員11名を配置し、一人一人のニーズに応じた特別支援教育を行いました。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 特別支援教育についての専門的な研修を実施することにより、支援計画をもとにした計画的・組織的な取り組みを実施することが必要です。 【課題等への取り組み】 嘉麻市教育センターが実施する特別支援教育の研修会に、補助教員、介助員、支援員が参加することにより、専門的指導や支援ができるよう取り組んでいます。また、県が実施する研修会にも積極的に参加するよう指導しています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 障がいのある児童生徒の支援、通常学級において特別支援が必要な児童生徒の支援、病気のため、日常生活の見守りが必要な児童の支援のために、補助教員15名、介助員2名、支援員11名を配置し、子ども一人一人のニーズに応じた教育支援を実施しました。 教育センターが実施する特別支援教育研修会に教職員が参加することで、専門的な指導や支援が実施できるよう取り組んでいます。				
今後の方向性	早い時期に特別支援教育の研修会を実施し、基礎的な理解を図るとともに、支援計画の作成、実施、評価について、学校訪問等で個別の指導を行います。				
H25年度の課題	特別支援教育についての専門的な研修を継続して実施することにより、支援計画にそった計画的・組織的な取り組みを実施し、評価していくことが必要です。				
『評価委員の意見』 ・評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		B			

○重要課題２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2) 社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算・決算)	[7] 英語コミュニケーション能力の育成事業 (学校教育課：教務係) (予算： 22, 265千円 決算： 22, 265千円)				
目的	言語や文化についての体験的に理解を深め、英語によるコミュニケーション能力を養い国際感覚を身に付けさせることです。				
事業内容	国際的な共通語として英語によるコミュニケーション能力の育成や文化についての体験的理解を深めることを目的として、外国語指導助手（ALT）の活用による外国語活動の充実を図ります。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 各中学校区に配置しているALTを活用することにより、教職員の指導力向上を図り、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図る必要があります。 【課題等への取り組み】 各中学校区に配置しているALTを活用し、教職員の指導力向上を図りました。また、小学校教員を対象に、研修会を実施しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ALTを各中学校区に1名配置し、小・中学校における外国語教育の充実を図ることができました。また、小学校教員を対象に、嘉麻市独自の研修会を実施し、外国語活動の充実に向けた指導力の向上を図ることができました。 外国語教育を更に充実させるため、平成25年度からはALTを業務委託から労働者派遣に変更することにより、TT（チームティーチング）による授業が行えるよう契約方法の変更を行いました。				
今後の方向性	英語によるコミュニケーション能力の育成や文化についての体験的理解を深めるため、外国語教育の更なる充実、教職員の指導力向上のための取り組みを行います。				
H25年度の課題	教員とALTが共同で授業を行うことにより、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図るとともに、教職員の指導力向上に取り組む必要があります。				
『評価委員の意見』 ・大変重要な事業であり、小学生から英語になれる取り組みが必要である。					
教育委員会評価		B			

○重要課題２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2) 社会の変化に対応する教育の充実

(2) 社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算・決算)	[8] 情報教育推進事業（学校教育課：教務係） （予算： 6， 2 1 2 千円 決算： 6， 2 1 2 千円）				
目 的	児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的かつ適切に活用できるようにするため、情報教育の充実を図ります。				
事業内容	教育センターに情報教育推進教員 1 名、I C T 支援員 1 名を配置し、児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力の育成、情報モラル教育を行いました。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 問題解決に向けた追求活動を行うためには自分で調べ、情報収集を行うことが必要です。そのため I C T を活用した、授業改善が必要となります。 【課題等への取り組み】 情報教育推進教員 1 名、I C T 支援員 1 名配置し、I C T を活用した授業改善、校務の電算化を推進しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 I C T 支援員の配置により、各学校の情報教育の充実に向けたサポート体制を整備し、通知表等の校務の電算化を推進し、学校ホームページを整備しました。また、児童生徒用のノートパソコンや電子黒板、地デジ化テレビの整備により、情報機器を活用した授業実践や研究を実施しています。				
今後の 方向性	新学習指導要領に対応した情報機器の活用や情報モラル等の授業を行い、教員の情報活用能力の向上を図っていきます。また、各学校への情報教育の授業者として関わりを深め、全校の情報化サポート体制を検証していきます。				
H 2 5 年度 の課題	問題解決的な学習の中で、調べ活動及び表現活動に I C T を活用した学習の構築を進めるよう促します。				
『評価委員の意見』 ・ 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価			B		

○重要課題２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2) 社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算・決算)	[9] 情報教育施設整備事業（学校教育課：庶務係） (予算： 51, 761千円 決算： 51, 653千円)				
目 的	コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的かつ適切に活用できるように、情報教育を行なうための情報機器の整備・維持管理を図ります。				
事業内容	市内小、中、高等学校（18 校）のＰＣ教室のパソコンリース及び保守並びに教育用ＰＣ（388 台）及び校務用ＰＣ（274 台）の保守を行い、情報教育の充実に図ります。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 ・ＰＣ教室を始めとする情報機器の利用状況を把握し、利用が低い学校についてはヒアリングを行い、原因を解決する必要があります。 【課題等への取り組み】 ・情報機器の利用状況については、特に電子黒板の利用状況ヒアリングを行い、学校でのより一層の活用推進を行いました。 また、城山校についてはＰＣ教室内のＰＣリプレイス（31 台）を行い、より高度な情報教育に対応できる環境の整備を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 平成22年度に、教育用ＰＣ及び校務用ＰＣを整備し、国の基準である児童、生徒3.6人/1台を満たしています。 常に快適な環境でＰＣを利用できるよう定期的な点検を行っています。 城山校においては、ＰＣ教室内のＰＣリプレイスを行い情報教育の環境整備を行っています。 校務用ＰＣについては、1クラス30人学級が施行され、教職員数の増加に伴い不足が生じており、古いＰＣで対応していますが、作動性の問題やサポート終了（WindowsXP等）の問題等への対応が必要です。				
今後の方向性	ＩＣＴを活用した授業の充実を図るために、必要に応じて情報機器の整備を図ります。 校務用ＰＣの配置数について、基準を設け、不足分の解消に努めます。				
H25年度の課題	嘉穂地区小、中学校、ＰＣ教室内のＰＣがリプレイス時期になっています。また、嘉穂小学校の開校に伴う調整も必要となり、校務用ＰＣ等の移設を行うにあたり、授業に支障の無い最適な方法及び時期について検討する必要があります。				
『評価委員の意見』 ・評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		B			

○重要課題２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(３) 信頼される教員の確保と研修の充実

事業名 (予算・決算)	【10】 嘉麻市教育センター研修推進事業（学校教育課：教務係） （予算： 個別予算なし 決算： 個別予算なし ）				
目 的	教育センターを中心に、市の課題に応じた教職員及び教育研究団体等の教育研究を奨励するとともに、若年層の指導技術向上、教職員の資質向上に努めます。				
事業内容	教職員研修、授業充実研修、専門研修の実施、校内研修における指導助言を行います。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 若年者に対する研修内容、方法、時期、機会の更なる充実が必要です。学力向上の核となる、学力向上コーディネーター、学年主任の育成が必要です。 【課題等への取り組み】 教育センター指導主事を中心に、教職員研修、授業充実研修、専門研修を実施し、教職員の授業力向上に努めました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 教育センターに指導主事を配置し、教職員研修の充実に努めました。指導主事の活用により、計画的・継続的な授業改善に取り組むことができています。 少人数指導特別教員等の市費負担講師の増加、定数欠等の県費負担講師も増加しており、若年の講師が増えています。講師を対象とした研修も実施しており、今年の教員採用試験では16名が合格するなど、研修の成果が出ています。				
今後の方向性	公開授業の日程を集約し、積極的に学校訪問を行い指導しました。また、5年経過未満の教員の授業力向上に向けた、指導を行っていきます。 教育センターに指導主事を配置し、教職員研修はすべて教育センターで実施します。				
H25年度の課題	本年も若年者に対する研修内容、方法、時期、機会の更なる充実が必要です。また、学力向上の核となる、教務主任研修を臨時で数回行う等、授業力向上の取り組みが必要です。				
『評価委員の意見』 ・ 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		B			

○重要課題２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(3) 信頼される教員の確保と研修の充実

事業名 (予算・決算)	【11】教職員人事配置事業（学校教育課：教務係） (予算： 個別予算なし 決算： 個別予算なし)				
目 的	教職員の交流を図り、人事の適正化を進めます。また、地域の実態を踏まえ、学校間格差をなくす人事配置を実施します。さらに小・中学校連携の推進の観点から小・中学校の人事交流を行っていきます。				
事業内容	地域の実態を踏まえ、学校間格差をなくす人事配置を実施し、小・中学校の人事交流を行いました。				
H24年度の課題と取り組み	【課題など】 平成26年度の嘉穂小学校開校に向け、教職員数が定数内となるような計画的な人事配置が必要です。 【課題等への取り組み】 嘉穂地区の小学校の統廃合を控えており、教職員数が定数内となるように、地域の実態や年齢構成に配慮した人事配置を実施しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 嘉穂地区の小学校の統廃合を控え、小学校の教職員が過員（定数を超える状況）にならないよう、人事配置を実施しました。平成26年度の教員数が定数内になるように配慮しながら、4名の教員を新規採用しました。地域の実態や年齢構成に配慮した、学校間格差をなくす人事配置を実施しました。				
今後の方向性	嘉穂地区小学校の統廃合により、平成26年度には小学校の教職員数が定数を上回る状況になります。学校格差をなくす人事配置の実施とともに、教職員数が定数内となるような計画的な人事配置が必要となります。 嘉麻市外の学校に異動となる教職員が多く、指導力のある教職員を確保するためには、教職員研修を充実することにより、教職員の資質向上に努めます。				
H25年度の課題	平成26年度の嘉穂小学校開校に向け、教職員数が定数内となるような計画的な人事配置が必要です。				
『評価委員の意見』 ・ 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		B			

○重要課題２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(４) 安心して学べる学校づくりの推進

事業名 (予算・決算)	[1 2] 学校防犯体制整備事業（学校教育課：教務係） (予算：5, 9 1 0千円 決算：5, 9 1 0千円)				
目 的	児童生徒の安全管理のため、学校安全に関する取り組みの充実を図ります。				
事業内容	学校支援員（警察OB）を配置し、警察等関係機関と連携して生徒指導上の支援を行っています。地域学校安全推進員（スクールガードリーダー）による校内の定期的な巡回や見守り、安全マップの作成、防犯メールの配信により、学校の安全体制の整備充実を図りました。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 全国で登下校中の児童生徒が、巻き込まれる事故が相次いでいます。通学路の安全点検、危険箇所の改善要望等を行い、児童生徒が安全に登下校できるよう対策を講じる必要があります。 【課題等への取り組み】 警察、県土整備事務所、土木課と連携し、市内の通学路の安全点検を実施しました。学校支援員、スクールガードリーダー、地域ボランティアによる通学路での安全指導を実施し、交通事故の防止に努めました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 学校支援員、スクールガードリーダーの配置、防犯メールの全校実施により、学校防犯体制の整備は進んでいます。学校支援員と警察等関係機関との連携により、迅速な生徒指導対応ができました。 不審者事案が発生した場合は、学校支援員と警察が連携して、巡回等を行うことにより、深刻な事態に発展しないよう対応しています。 警察、県土整備事務所、土木課と連携し、市内の通学路の安全点検を実施しました。				
今後の 方向性	生徒指導問題や不審者の増加など、防犯体制の更なる充実が必要であり、今後も引続き学校安全に関する取り組みを継続します。また、防犯メールの普及により、地域への防犯意識を深めていきます。				
H 2 5 年度 の課題	通学路の安全点検、危険箇所の改善要望の継続、安心メールにより、不審者事案への早期対応を行うことにより、児童生徒が安全に登下校できるよう対策を講じる必要があります。				
『評価委員の意見』 ・登下校時の事故防止には、地域社会の協力（登下校時の見守り等）が必要である。					
教育委員会評価		A			

○重要課題２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(４) 安心して学べる学校づくりの推進

事業名 (予算・決算)	【13】通学対策事業（学校教育課：教務係） (予算：3, 858千円 決算：3, 345千円)				
目的	学校の統廃合に伴い、遠距離通学することになった児童生徒の通学費の負担を軽減します。				
事業内容	学校の統廃合に伴い、遠距離通学することになった児童生徒の通学費の負担を軽減するため、通学費の補助、スクールバスの運行を行っています。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 遠距離通学する児童生徒の安全確保と保護者の通学費の負担を軽減することが必要です。 【課題等への取り組み】 バスの定期券の購入費用の補助、スクールバス運行による生徒の送迎を行っています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 稲築西小学校、嘉穂中学校に通学する児童生徒のうち、遠距離通学している児童生徒のバス定期券の購入費用の補助を行いました。また、嘉穂中学校でスクールバスを運行し、遠距離通学となる生徒の送迎を行っています。				
今後の方向性	嘉穂地区小学校の統廃合に伴い、遠距離通学となる児童の通学を支援するため、スクールバスの運行、通学費の補助を検討します。				
H25年度の課題	嘉穂小学校のスクールバスを平成26年度から運行予定であり、運行に関する事前準備が必要です。				
『評価委員の意見』 ・嘉穂小学校へ通う児童の通学路が、大幅に変更されるので、十分な対策の実施が必要である。					
教育委員会評価		A			

○重要課題 2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(4) 安心して学べる学校づくりの推進

事業名 (予算・決算)	[1 4] 学校施設維持管理事業（学校教育課：庶務係） (予算： 1 1 1, 1 9 9千円 決算： 1 0 7, 3 1 4千円) (繰越： 8, 2 0 0千円 8, 0 0 0千円)				
目 的	すべての児童、生徒が安心・安全な環境において、生活（学習）できるよう小中学校の補修、修繕、草刈等の環境整備を実施し、施設維持の管理を行います。				
事業内容	市内小、中学校 17 校（小学校 12 校、中学校 5 校）の施設整備及び維持管理 ・施設修繕及び補修工事 体育館照明取替（9 校） 上山田小学校駐車場整備工事 他 ・施設維持管理業務委託 （草刈、清掃、樹木剪定、浄化槽維持管理等）				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 ・安心、安全な教育環境を維持するために、緊急性を要するものから、施設の整備を行います。 ・市内小中学校において慢性的な駐車場不足が起こっています。そのため、近隣住民とのトラブルや交通事故等が多発しており、駐車場の整備が必要です。 【課題等への取り組み】 ・緊急性の高いものから施設整備を実施し、安全性の確保に努めています。 ・上山田小学校の駐車場整備を行い、当該学校周辺での違法駐車 の 解消に努めました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 安心で安全な教育環境を整備するために必要な事業です。 全校耐震化が完了し、今年度は、上山田小学校駐車場整備、体育館照明取替、稲築西小学校廊下張替等を実施し教育環境の整備を行いました。 引き続き安心、安全な環境整備を優先的に実施していきませんが、経年劣化による修繕箇所の増加は著しく、今後は、計画的な大規模改修工事の施工が必要となります。				
今後の 方向性	大規模改修工事のための調査、検討を行い、年次計画的に 1 校ずつ実施します。				
H 2 5 年度 の課題	自動車社会による、市内小中学校の慢性的な駐車場不足は解消できていません。近隣住民とのトラブルや交通事故等の防止のため、引き続き駐車場の整備が必要です。 大規模改修工事を計画的に実施していきます。				
『評価委員の意見』 ・評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		A			

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(4) 安心して学べる学校づくりの推進

事業名 (予算・決算)	[15] 大隈城山校維持管理事業（学校教育課：庶務係） (予算： 14,620千円 決算： 12,420千円) ※情報機器整備事業費を除く				
目的	すべての生徒が安心・安全な環境において、生活（学習）できるよう、校舎等の適切な維持管理を行います。				
事業内容	大隈城山校の施設整備及び維持管理（建築年度：昭和61年度）				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 ・年次計画的に老朽化した施設の整備を実施します。 【課題等への取り組み】 ・施設整備では、消防設備の補修等を行うとともに、清掃業務や浄化槽維持管理業務等を適切に実施しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 大隈城山校は、地域の高等教育機関の教育の場として大きな役割を果たしています。今年度は消防設備の補修を行うなど、施設の整備を行いました。今後も老朽化した施設の整備を継続的に実施し、安心、安全な教育環境の維持に努めます。				
今後の方向性	生徒が、快適な環境の中で落ち着いて学習に望めるように、安心、安全な教育環境の整備を実施します。				
H25年度の課題	引き続き、年次計画的に老朽化した施設の整備が必要です。				
『評価委員の意見』 ・今後も、学校の存続を希望する。					
教育委員会評価		A			

○重要課題２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(５) 嘉穂小学校施設整備の推進

事業名 (予算・決算)	【16】 嘉穂小学校開校準備審議会運営事業（嘉穂小学校開校準備室：小学校開校準備係） （予算： 2, 296千円 決算： 1, 055千円）				
目 的	嘉穂地区の5小学校（大隈小、宮野小、足白小、千手小、泉河内小）を1つに統合し、新たに設置する嘉穂小学校の開校準備等について議論するために、PTA及び地域代表者により構成される審議会を円滑に運営することです。				
事業内容	平成24年5月に次の3つの内容について諮問し、審議会において審議しました。 [諮問第1号]通学対策の基本計画案について [諮問第2号]校章案及び校歌案について [諮問第3号]統合対象小学校の跡地の利活用案について				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 審議会運営のほか、通学対策準備委員会、跡地利活用意見交換会、閉校記念式典準備委員会等、閉校又は開校に関し様々な事業の調整を行うこと 【課題等への取り組み】 通学対策について、通学対策準備委員会を設置し、通学路及びスクールバス路線の協議を行い、校章校歌及び跡地利活用のアンケート調査の実施、統合対象小学校区に閉校準備委員会を設置しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 小学校統合に関しては、市民と協働による手法で様々なことを決定していくことが、嘉麻市教育委員会の基本方針であり、審議会との協議は重要です。 事業の効果については、通学路及びスクールバス路線の協議、校章及び校歌の歌詞のアンケート調査、学校跡地利活用のアイディア募集を行うなど概ね期待通りです。また、効率性についても、期待どおりの事務進捗でした。				
今後の方向性	通学対策の具体的な計画、跡地利活用、校章・校歌等について審議会で方向性を決定し、開校のための最終調整をしていきます。				
H25年度の課題	審議会運営のほか、通学対策準備委員会、跡地利活用意見交換会、閉校記念式典準備委員会等、閉校又は開校に関し様々な事業の最終調整を行うことが課題です。				
『評価委員の意見』 ・地域住民の意見を充分考慮され、また、その結果について住民に周知徹底されたことは、大変評価できる。					
教育委員会評価		A			

○重要課題２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(５) 嘉穂小学校施設整備の推進

事業名 (予算・決算)	[1 7] 嘉穂小学校建設事業（嘉穂小学校開校準備室：小学校建設係） （予算： 1,302,458 千円 決算： 900,099 千円）				
目 的	嘉穂地区にある 5 つの小学校を 1 つに統合し、新たに設置する嘉穂小学校の具体的な整備を行うことです。				
事業内容	・ 造成工事 ・ 小学校建設工事				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 造成、建設等の早期の工事契約及び円滑な工程監理並びに財源確保等が課題です。 【課題等への取り組み】 プール棟の建設が完了しました。また、造成工事を行いながら、建設工事を着工しました。財源についても、国庫補助金・交付金等を申請しています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 平成 2 6 年 4 月の開校に向け施設整備はこの根幹となる大変重要な事業です。 事業の効果については、プール棟が建設され、造成工事も着実に施工され、建設工事を着工できたことは大きな成果だといえると思います。また、事業の効率性については、期待どおりに進んでいます。				
今後の 方向性	平成 2 6 年 4 月開校に向け、造成工事及び建設工事を進めていきます。				
H 2 5 年度 の課題	平成 2 5 年度内に建設工事及びその他工事を完了させることが課題です。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		A			

○重要課題２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(6) 地域に開かれた学校づくりの推進

事業名 (予算・決算)	[18] 学校関係者評価事業（学校教育課：教務係） (予算：785千円 決算：291千円)				
目的	教育活動等の成果の検証とその客観性・透明性の確保を通じて学校運営の改善と発展を目指します。				
事業内容	保護者、地域住民等の連携強化のために、学校関係者評価を全校で実施し、評価結果を公表しています。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 学校運営改善と発展を目指し、保護者、地域住民等の連携強化のために学校関係者評価を全校で実施し、学校評価結果、改善策の公表を学校ＨＰで行う必要があります。 【課題等への取り組み】 学校関係者評価を全校で実施し、学校ＨＰで結果を公表しています。しかし、学校ＨＰで公表を行っていない学校もあるため、今後はすべての学校で結果を公表していきます。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 すべての学校で学校関係者評価の実施・公表・報告が行われましたが、公表の方法や内容については更なる工夫が必要です。また、評価項目についても、各学校の重点施策に併せた絞込みが必要です。				
今後の方向性	年度初めにおける学校経営方針等の保護者等への周知や、学校関係者評価の結果の公表について、ホームページを活用するなどの工夫が必要です。				
H25年度の課題	学校運営改善と発展を目指し、保護者、地域住民等の連携強化のために学校関係者評価を全校で実施し、学校評価結果、改善策の公表を学校ＨＰで行う必要があります。そのため、公表していない学校については、指導を行います。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませでした。					
教育委員会評価		B			

○重要課題２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(6) 地域に開かれた学校づくりの推進

事業名 (予算・決算)	[19] 学校開放事務事業（学校教育課：庶務係） （予算： 個別予算なし 千円 決算： 個別予算なし 千円）				
目 的	生涯学習社会における、文化、スポーツ等の地域活動の場として、学校施設を開放することにより地域住民の生涯学習の推進を図ります。				
事業内容	学校教育に支障のない限りにおいて、市内小、中学校 17 校（小学校 12 校、中学校 5 校）の体育館及び運動場等の施設を開放します。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 ・学校施設は管理人等がいらないため、施設の破損等の際の責任の所在を確認することが困難です。また、施設破損等の発見が遅れるため、修繕等の対応が遅くなります。 【課題等への取り組み】 ・学校終了後の貸し出しとなるため、施設を開放した翌日に点検を行うよう努めました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 市内の社会体育施設（主に体育館）の利用は平日の夜間利用に集中するため、継続した運動機会を確保するためにも、学校施設の開放は非常に効果が高いものであります。 しかしながら、現在の申請受付から許可書発行までは、手続きが煩雑で許可書発行までに時間を要する為、許可書発行の簡素化が必要です。				
今後の 方向性	生涯スポーツの推進に寄与するため、学校教育に支障のない限りにおいては、継続して施設の開放を行っていきます。				
H 2 5 年度 の課題	申請受付の簡素化を検討します。				
『評価委員の意見』 ・開放中の安全確認等は、必要であると思われる。					
教育委員会評価		B			

○重要課題2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(7) 小中連携教育への取組み

事業名 (予算・決算)	[20] 小中学校連携・一貫教育研究事業 (学校教育課：教務係) (予算： 個別予算なし 決算： 個別予算なし)				
目的	研究開発校や構造改革特区における小中一貫教育の取り組みの成果を踏まえ、カリキュラム区分の弾力化など、小中学校間の連携・接続を改善するための仕組みについて種々の観点に配慮しつつ、十分に研究していきます。また、小中学校間の教職員の人事交流や共同研究、小中連携した学力向上の取り組み、生徒指導の連携などを図ります。				
事業内容	小中間の教職員の人事交流や共同研究を通して、小中連携を推進しています。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 小中学校が協力し、初等教育（一般の小学校で行われている教育）と前期中等教育（一般の中学校で行われている教育）の課程を調整し、小学校と中学校がより連携しやすい環境作りをするため、小中連携教育等基本方針策定の準備を進めます。 【課題等への取り組み】 小中間の教職員の人事交流を実施し、小中連携に向けた各中学校区での取り組みの推進を図るようにしました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 小中間の教職員の人事交流を実施しました。 嘉麻市を4つのブロックに分け、小中連携に取り組む組織作りを行い、授業内容の連携を通して、小中連携教育を推進していきます。				
今後の方向性	小中連携教育や小中一貫教育のあり方について、嘉麻市教育委員会としての基本的な考え方や、方策を取りまとめる必要があります。				
H25年度の課題	先進地視察等を通して、小中連携に取り組む組織作りを行い、授業内容の連携を通して、更なる小中連携教育を推進する必要があります。				
『評価委員の意見』 ・中一ギャップの解消のために、大切な事業であるので、事業の促進をお願いします。					
教育委員会評価		B			

○重要課題２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(８) 教育の機会均等の促進

事業名 (予算・決算)	[2 1] 就学援助事業（学校教育課：教務係） (予算： 7 7, 9 2 1 千円 決算： 7 6, 5 8 3 千円)				
目 的	学校教育法第 19 条に、「経済的理由によって、就学困難と認められる学齢児童又は学齢生徒の保護者に対しては、市町村は、必要な援助を与えなければならない。」と規定されており、経済的理由により就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、教育費の一部を負担します。				
事業内容	経済的理由により就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、教育費の一部を負担します。				
H 2 4 年度の課題と取り組み	【課題等】 嘉麻市内には、経済的理由により就学が困難な児童生徒が、約 4 割在籍しており、該当児童生徒の把握、適正な支援が必要です。 【課題等への取り組み】 就学援助システムを導入し、認定基準の見直しを行いました。 広報紙、児童生徒へのチラシの配布等により、就学援助の申請時期等を周知することにより、援助の必要な保護者に申請を促しています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 経済的理由により、就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、学用品費、給食費、修学旅行費等の教育費の一部を負担しています。就学援助事業につきましては、広報紙、チラシ等を配布することで、周知しています。				
今後の方向性	生活保護基準の見直しも行われており、就学援助につきましても、支援の必要な家庭に必要な支援を行います。				
H 2 5 年度の課題	生活保護基準の見直し（保護費の減額）が行われるため、近隣市町村の状況を確認しながら認定基準を検討します。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		A			

○重要課題２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(8) 教育の機会均等の促進

事業名 (予算・決算)	【22】奨学金事業（学校教育課：庶務係） (予算：23, 232千円 決算：22, 479千円)				
目的	嘉麻市独自の奨学金制度により、高等学校や大学等に進学、就学するための奨学金を貸し付け、経済的理由による、就学困難者の軽減を図ります。				
事業内容	・ 嘉麻市奨学資金貸付及び返還に関する業務 (貸与中の人数：50人) (返還中の人数：178人)				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 ・ 滞納者に対し督促等を随時行い、滞納を未然に防ぐとともに、納付相談等を実施し、滞納者や滞納額の増加を抑制する必要があります。 【課題等への取り組み】 ・ 滞納者に対し、督促状の発送や、電話督促を行うとともに、納付誓約書を提出させた。 ・ 口座振替制度を推進し、返還金徴収の向上に努めた。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 奨学金制度を広報に掲載するとともに、中学校、高等学校に周知を行いました。 また、奨学生の情報管理が、電算化されたことにより、納付書の発送や収納管理など、事務の効率化が図れました。 督促状発送等の滞納対策により、嘉麻市奨学金返還の収納率は、平成23年度50.3%に対し、平成24年度52.1%と約2ポイント上昇しました。				
今後の方向性	幅広く奨学資金貸付事業の周知を行い、経済的な理由により、就学が困難な家庭の支援を引き続き実施します。また、滞納者に対する対応を検討し、返還金徴収の向上に努めます。				
H25年度の課題	督促等を随時行い、更なる徴収率向上に努めます。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		B			

○重要課題２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(８) 教育の機会均等の促進

事業名 (予算・決算)	[2 3] 幼稚園就園奨励費支給事務事業 (学校教育課：庶務係) (予算： 3 5, 9 0 8 千円 決算： 3 5, 3 9 0 千円)				
目 的	幼稚園教育の一層の普及充実を図るため、幼稚園に就園させている世帯に対し、保護者の所得状況に応じて、保育料等の支払の経済的負担の軽減を図ります。また、普及を図るため、広報等により情報を発信します。				
事業内容	私立幼稚園の設置者が、当該幼稚園に在園する保護者に対して保育料の減免措置を行った額を補助しています。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 国の施策であり、国の補助基準額に基づき、補助を実施しています。国からの補助率は 1 / 3 であるため、補助基準額や申請者数が増加することにより市の負担額が増加します。 【課題等への取り組み】 国の基準により、補助金の交付を実施しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 国の補助基準に基づき、速やかに補助金の交付事務を実施することができました。				
今後の 方向性	この制度は、保護者の経済的な負担の軽減を図り、公立、私立幼稚園の保護者負担の格差を是正することを目的とした国庫補助制度であり、子育て支援の施策として、今後も継続的に実施します。				
H 2 5 年度 の課題	国の施策であり、国の補助基準額に基づき、補助を実施しています。国からの補助率は 1 / 3 であるため、補助基準額や申請者数が増加することにより市の負担額が増加します。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		A			

○重要課題３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(１) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実

事業名 (予算・決算)	[2 4] 道徳教育推進事業（学校教育課：教務係） (予算： 個別予算なし 決算： 個別予算なし)				
目 的	学校における道徳の時間の充実を図るとともに、家庭や地域社会との連携を図りながら、豊かな自然・社会体験を通して児童生徒の内面に根差した道徳性の育成を図ります。				
事業内容	学校における道徳の時間の充実を図るとともに、家庭や地域社会との連携を図ります。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 新学習指導要領に即した道徳の学習の時間が、適切に実施、充実するように、指導・助言を繰返し行っていく必要があります。 【課題等への取り組み】 市内小・中学校において、道徳教育副読本の整備を行い、道徳教育副読本を活用した授業が行われています。また、市内小・中学校で道徳の学習時間の授業参観を実施しています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 市内小・中学校において、道徳教育副読本の整備を行い、道徳教育副読本を活用した授業を行うことにより、道徳教育の充実に努めました。また、市内小・中学校で道徳の学習時間の授業参観を実施しています。				
今後の 方向性	学校における道徳の時間を充実させるため、今年から「規範意識」と「セルフイメージ」の向上に視点を置きながら進めていきます。				
H 2 5 年度 の課題	道徳の時間を適切に実施、充実するよう、各学校に規範意識が育った子どもの姿を３点示し、各学校でそれに近づけるよう促すなど、指導・助言を繰返し行っていく必要があります。				
『評価委員の意見』 ・教育委員会だけではなく、嘉麻市全体として取り組みを行うべきである。 ・小中学校における真の道徳教育の強化を望む。					
教育委員会評価		B			

○重要課題３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(１) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実

事業名 (予算・決算)	[2 5] キャリア教育推進事業（学校教育課：教務係） (予算：1 7 9 千円 決算：1 7 9 千円)				
目 的	家庭や地域と連携して、職業・職場体験活動等を行い、児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、望ましい勤労観、職業観を育てます。				
事業内容	市内の中学校において、総合的な学習の時間の中で、職場体験を実施します。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 校区内・市内の協力事業所を開拓し、実施することで、地域と連携した活動にする必要があります。 【課題等への取り組み】 校区内・市内の協力事業所を開拓し、実施することで、地域と連携した活動にする必要がありますが、市内に生徒を受け入れてくれる事業所が少なく、地域と連携した活動については課題が残っています。しかし、職場体験学習を市内すべての中学校で実施しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 職場体験学習（２日～３日）を市内の全中学校で実施し、生徒の職業観や進路選択に向けた意識に変容がみられるなど、期待通りの効果が上がっています。一方、体験場所の校区内・市内での掘起しにはまだ検討の余地があり、地域とのつながりがまだ薄い状況です。				
今後の 方向性	生徒自らが体験場所を探し、交渉して実施するなど、自分の力で探究していく力を付けていくような学習になるようにしていきます。				
H 2 5 年度 の課題	協力事業所との打ち合わせ会、指導内容、職場体験日数の検討などに取り組む必要があります。				
『評価委員の意見』 ・ 職場体験学習のシステムづくりの確立が必要である。					
教育委員会評価		B			

○重要課題３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(１) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実

事業名 (予算・決算)	[26] ボランティア活動推進事業（学校教育課：教務係） （予算： 個別予算なし 決算： 個別予算なし ）				
目 的	家庭や地域社会と連携して、児童生徒が他の人々や社会のために役立つとともに自分が価値のある存在であることを実感し、よりよく生きるための道徳的実践力の育成を図ります。				
事業内容	市内全小中学校において、ボランティア活動を計画的に実施します。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 各学校においてボランティア活動が定着してきており、今後は地域や家庭の協力を得るなど、地域社会と連動した活動にしていく必要があります。 【課題等への取り組み】 各学校のボランティア活動の様子を、家庭や地域に積極的に発信しており、地域社会と連動した活動になるよう取り組んでいます。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 地域の清掃活動、河川清掃、赤十字活動等、各学校の特色を活かしたボランティア活動を実施しており、各学校においてボランティア活動が定着してきています。				
今後の 方向性	地域社会の活動と連動したボランティア活動の実施を推進していきます。				
H 2 5 年度 の課題	各学校においてボランティア活動が定着してきており、今後は地域や家庭の協力を得るなど、地域社会と連動した活動にしていく必要があります。				
『評価委員の意見』 ・道徳性や自立性の育成にも必要であり、是非とも推進したい事業である。					
教育委員会評価		B			

○重要課題３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実

事業名 (予算・決算)	[2 7] 学校保健事業（学校教育課：教務係） (予算：2 5, 1 4 8 千円 決算：2 3, 4 7 3 千円)				
目 的	家庭、地域及び関係機関等の連携・協力により、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理の徹底を図ります。また、事故、加害行為、災害等により、児童生徒に危険又は危害が生じた場合の対処として、災害共済に加入します。				
事業内容	児童生徒、教職員の健康診断を実施。市内の小中学校に学校医、学校歯科医、学校薬剤師を配置し、児童生徒の保健、安全に関する指導を行いました。また、各学校において学校保健・安全に関する年間計画を作成し、適切に実施するよう指導助言を行います。 災害共済加入手続きや給付金の支払い業務を行います。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 法令に則り、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理の徹底を図ります。 【課題等への取り組み】 要精密検査対象者の医療機関受診奨励等を行い、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理の徹底を図りました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 児童生徒、教職員の健康診断を実施。市内の小中学校に学校医、学校歯科医、学校薬剤師を配置し、児童生徒の保健、安全に関する指導を行いました。また、各学校において学校保健・安全に関する年間計画を作成し、適切に実施するよう指導助言を行います。 災害共済加入手続きや給付金の支払い業務を行いました。				
今後の 方向性	法令により実施しているものであり、今後も引続き実施していきます。				
H 2 5 年度 の課題	法令に則り、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理の徹底を図ります。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		B			

○重要課題３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(２) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実

事業名 (予算・決算)	[2 8] 学校給食運営事業 (学校教育課：学校給食係) (予算： 2 6 1 , 9 7 7 千円 決算： 2 5 5 , 5 9 4 千円)				
目 的	嘉麻市内小中学校で完全給食を行い、学校給食における衛生管理の徹底を図るとともに、魅力ある学校給食の充実に努めます。また、「食育」に関する授業の実施で、「食事の重要性」等を身に付ける教育を支援します。				
事業内容	嘉麻市内全小中学校において、完全給食を実施しています。衛生管理の徹底を図るために、施設の改修及び調理員を対象とした衛生管理研修を実施しています。 食育に関しては、「食育の日」、「食育月間」はもとより、年間を通して、学校毎に実態に応じた取り組みを行っています。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 ・地産地消を継続推進し、利用率の向上を目指します。 ・日本の伝統食（伝統料理）などをメニューに入れて、日本の食文化を学習する機会を設けます。 【課題等への取り組み】 ・地元直売所を活用し、地場産の利用率向上に努めました。 ・郷土料理の日を実施し、福岡をはじめとする郷土料理を提供するとともに、毎月ファイバーの日において、きんぴらや切り干し大根等、日本の食文化に根ざした料理を提供しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 年間給食回数 1 8 5 回を基準に実施し、1 日約 3 , 6 0 0 食の調理提供を行いました。 地産地消の推進に関しては、例年同様に地元直売所を通じ地場産の購入に努め、地場産利用率は 26. 31 % で前年度に比べ 5. 14 ポイント上昇しました。				
今後の 方向性	学校給食法第 4 条、義務教育諸学校の設置者の任務であり、これに基づく学校給食施設の維持管理及び給食の実施を継続していきます。 安全・安心な給食の提供、食育の充実に図り、併せて地産地消を推進します。				
H 2 5 年度 の課題	安全・安心な給食の提供を行うため、保健所等による衛生管理立ち入り調査にて指摘された事項について、確実に対応する必要があります。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		A			

○重要課題３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実

事業名 (予算・決算)	[2 9] 学校給食費算定及び収納事業 （学校教育課：学校給食係） (予算： 5 4 8 千 円 決算： 4 1 8 千 円)				
目 的	学校給食費は、賄材料費の購入に要する経費のみを保護者負担としており、安全・安心な食材の購入等を行うための算定を行います。 また、受益者負担の公平性を確保するために、徴収業務を行います。				
事業内容	栄養バランスのとれた食材の購入ができるよう予算管理を行っています。 また、受益者負担の公平性を確保するために給食費徴収業務を行っています。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 ・ 保護者の公平な給食費負担を目指し、収納率の向上に努めます。 【課題等への取り組み】 ・ 収納率向上への取り組みとして、未納通知や催告書を発送するとともに、訪問による徴収も実施しました。高額未納者に対しては、納付誓約書や児童手当からの引去りの同意書を提出させ、分割納付や児童手当からの引去りを実施しています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	未納通知の発送、訪問徴収等、収納率向上への取り組みを実施しました。 現年度（H24）の徴収率は、97.66%で前年度に比べ△0.06 ポイント、過年度の収納率は 19.14%で前年度に比べ△3.63 ポイントと共に下降しました。				
今後の 方向性	引き続き、受益者負担の公平性を図るため、徴収業務を行います。				
H 2 5 年度 の課題	保護者の公平な給食費負担を目指し、更なる収納率向上に努めます。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		B			

○重要課題３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(３) 家庭・地域・学校における読書活動推進

事業名 (予算・決算)	【30】読書活動推進事業（学校教育課：教務係） (予算：32,677千円 決算：30,954千円)				
目的	児童生徒の学習や読書意欲を高めるため、市立図書館や嘉麻市学校図書館協議会等との連携を図りながら、学校図書館の整備や図書司書機能の充実に努めるとともに、組織的、継続的な読書活動の推進に努めます。				
事業内容	図書館の管理運営、図書教育の指導補助、図書の受け入れ、貸し出し業務、書架の整理、廃棄業務、教科用図書関係事務等を行うため、図書司書13名を配置し、学校図書館の整備、充実に努めています。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 図書館の整備や読書活動の充実が図られるようになっており、朝読書や読み聞かせ等の読書活動を組織的、継続的に推進していく必要があります。 【課題等への取り組み】 嘉穂地区小学校が統合後は、各小中学校に図書司書が配置できる人数を確保できました。各学校において、学校図書館の整備や図書司書機能の充実に努めています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 嘉穂地区小学校が統合後は、各小中学校に図書司書が配置できる人数を確保できたことにより、学校図書館の整備状況や読書活動が不十分であった学校において、図書館の整備や読書活動の充実が図られるようになりました。朝読書や読み聞かせ等の読書活動を行うなど、組織的、継続的な読書活動の推進に努めています。 図書の蔵書数が、文科省の学校図書館標準蔵書数に満たない学校があったため、すべての学校で蔵書数が充足するよう図書の購入を行いました。				
今後の方向性	すべての学校に図書司書を配置し、図書館教育担当教諭や司書教諭と連携しながら効率的・機能的な図書館運営を推進します。				
H25年度の課題	図書館の整備や読書活動の充実が図られるようになっており、朝読書や読み聞かせ等の読書活動を組織的、継続的に推進していく必要があります。				
『評価委員の意見』 ・読書は、学力と密接な関係にあるので、図書司書の増員は、大変評価できる。					
教育委員会評価		A			

○重要課題３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(４) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実

事業名 (予算・決算)	【3 1】適応指導教室（れすとぴあ）推進事業（学校教育課：教務係） (予算：4, 4 3 7 千円 決算：3, 9 7 7 千円)				
目 的	心理的又は情緒的理由により登校できない状態にある児童生徒の学校復帰を支援し、不登校児童生徒数の減少に取り組みます。教育相談、体験学習、教科学習、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言、援助を行います。				
事業内容	教育相談、体験学習、教科学習、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言、援助を行います。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 学校と教育センターが連携し、不登校傾向の児童生徒への早期対応、不登校の解消・改善に取り組み、年々増加している不登校児童生徒数を減少させることが必要です。 【課題等への取り組み】 不登校傾向、不登校の児童生徒の学校復帰を支援するため、集団生活への適応指導、教育相談等を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 適応指導教室に3名の適応指導教室指導員兼相談員を配置し、適応指導、教科学習、教育相談等を行いました。平成24年度は適応指導教室（れすとぴあ）に13名の児童生徒が在籍し、そのうち3名が学校に復帰しました。中学3年生は7名在籍しており、学校復帰はなかったものの、適応指導教室での教科学習等の指導の結果、全員が高校に進学しています。				
今後の 方向性	学校と教育センターが連携し、不登校傾向の児童生徒への早期対応、不登校の解消・改善に取り組み、年々増加している不登校児童生徒数を減少させることが必要です。				
H 2 5 年度 の課題	特別支援学級在籍生徒への対応、高等学校へ進学するための学力保障等のため、適応指導教室において、専門的知識のある職員の配置等、指導員の増員が必要です。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		A			

○重要課題３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(４) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実

事業名 (予算・決算)	[3 2] 教育相談推進事業（学校教育課：教務係） (予算：4, 4 3 7 千円 決算：3, 9 7 7 千円)				
目 的	いじめや不登校、暴力行為などの問題行動を起こした児童生徒に対して、専門的な知識や経験を有するスクールカウンセラーがカウンセリング行い、スクールソーシャルワーカーが中心となって関係機関と連携をとりながら問題解決にあたります。				
事業内容	嘉麻市教育センターにスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを配置し、不登校等の未然防止に向けて支援を行います。また、必要に応じて、保護者や教員等の教育相談を実施します。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 学校と教育センターが連携し、不登校傾向の児童生徒への早期対応、不登校の解消・改善に取り組み、年々増加している不登校児童生徒数を減少させることが必要です。 【課題等への取り組み】 スクールカウンセラーによる教育相談、スクールソーシャルワーカーによる関係機関との連携により、いじめ・不登校の解消、未然防止に取り組みました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 教育センターにおける教育相談件数は 36 件。その他、学校からの要請を受け、児童生徒や教職員を対象に教育相談を行っています。いじめ・不登校への対応については、学校だけでは対応が難しい場合もあり、スクールソーシャルワーカーを中心として、児童相談所やこども育成課等の関係機関と協力しながら、問題解決に当たっています。				
今後の 方向性	学校と教育センターが連携し、不登校傾向の児童生徒への早期対応、不登校の解消・改善に取り組み、年々増加している不登校児童生徒数を減少させることが必要です。				
H 2 5 年度 の課題	いじめ・不登校の問題は、年々複雑になっており、専門的知識をもった職員の助言等が必要となっています。教育相談についての組織的な体制を整え、学校を支援していくことが必要です。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		A			

○重要課題３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(４) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実

事業名 (予算・決算)	[3 3] ひきこもり訪問指導員配置事業（学校教育課：教務係） (予算： 7, 2 7 7 千円 決算： 7, 2 7 7 千円)				
目 的	家庭にひきこもりがちな不登校児童生徒に対して、児童生徒の抱える心の問題を理解し、積極的に取り組む意欲を有する訪問指導員を派遣し、ひきこもりがちな児童生徒やその保護者等の悩みや不安を解消し、適応指導教室への通級及び学校復帰を支援します。				
事業内容	不登校及び不登校傾向の児童生徒宅を訪問し、適応指導教室への通級及び学校復帰を支援します。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 学校と教育センターが連携し、不登校傾向の児童生徒への早期対応、不登校の解消・改善に取り組み、年々増加している不登校児童生徒数を減少させることが必要です。 【課題等への取り組み】 ひきこもり訪問指導員を 3 名配置し、家庭訪問等を行うことで、適応指導教室への通級及び学校復帰を支援しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ひきこもり訪問指導員を 3 名配置し、家庭訪問等を行うことで、適応指導教室への通級及び学校復帰を支援しました。 適応指導教室への通級、学校復帰者の増加、欠席日数の減少等、不登校解消に向けての成果は出ています。平成 23 年度までは増加傾向にあった不登校児童生徒数は、平成 23 年度が 119 名、平成 24 年度が 109 名と減少に転じました。				
今後の 方向性	今後とも学校と教育センターが更なる連携をし、不登校傾向の児童生徒への早期対応、不登校の解消・改善に取り組み、年々増加している不登校児童生徒数を減少させることが必要です。				
H 2 5 年度 の課題	平成 24 年度に不登校児童生徒数が減少に転じており、1 名増員した指導員を有効活用し、不登校解消の取り組みを今後も組織的に行う必要があります。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		A			

○重要課題３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(５) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算・決算)	[3 4] 地域教育資源活用事業（学校教育課：教務係） (予算： 1, 0 6 3 千円 決算： 9 2 9 千円)				
目 的	学習指導要領の趣旨を踏まえ、各学校の創意を生かした教育課程を編成し、地域社会の現状を踏まえ、児童生徒の学習に協力することのできる地域の人材や施設を生かし、教育活動を行います。				
事業内容	専門的な知識や経験を持っている人から話を聞いたり、技術を見せてもらったりする体験は、子どもたちの学びを深める上で、たいへん効果的であり、地域の人材を外部講師として招き、農業体験や物づくり指導を推進します。				
H 2 4 年度の課題と取り組み	【課題等】 人材バンクの積極的な活用を啓発することで、ゲストティーチャー等の地域教育資源を活用した学習を推進する必要があります。 【課題等への取り組み】 市内の学校に人材バンクの積極的な活用を啓発することにより、各学校の特色にあわせた外部講師を招き、教育活動を行っています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 専門的な知識や経験を持っている人から話を聞いたり、技術を見せてもらったりする体験は、子どもたちの学びを深める上で、たいへん効果的であり、地域の人材を外部講師として招き、農業体験や物づくり指導を受けるなどの、地域教育資源を活用した教育活動を展開しています。				
今後の方向性	新学習指導要領の趣旨に沿った総合的な学習の時間の年間指導計画の見直し、及びゲストティーチャーの活用計画の作成、実施、評価を行うよう促します。				
H 2 5 年度の課題	人材バンクの積極的な活用を啓発することで、ゲストティーチャー等の地域教育資源を活用した学習を推進する必要があります。				
『評価委員の意見』 ・指導者の育成や掘り越こしが必要である。 ・学校の授業とは違う環境、指導者で学習することの重要性を認識させることが大切である。					
教育委員会評価			B		

○重要課題３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(５) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算・決算)	[35] 学社連携融合事業（生涯学習課：社会教育係） (予算： 16千円 決算： 16千円)				
目 的	地域の教育力を活用するとともに、学校教育との相互連携を図り、地域全体で子どもを育てるため、学校教育・社会教育の相互連携を図ります。				
事業内容	学校と地域と家庭が一堂に介し、子どもたちについて意見交換を行うための会議の開催、事業の必要性や意識の向上を目指した研修会を開催します。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 本事業に対し、学校との間で認識の違いがあるため引き続き研修会並びに合同会議を開催し、考え方・方向性を合わせ、学校行事や生活科・総合的な学習の時間等において、人材バンクや生涯学習施設等を活用して学習を計画的に行う必要があります。 【課題等への取り組み】 全市及び各地区で、学校と地域と家庭が一同に介し研修会や会議を行いました。そこで出た課題や取り組みについて、今後とも継続的に協議を行い、学校と地域と家庭が共通の意識を持ち取り組みます。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 青少年を取り巻く環境が日々変わる今こそ、学校と地域と家庭が共に子どもの健全育成に取り組むことが必要不可欠だと考えます。そのために、社会教育係としてパイプ役としてコーディネートをしています。 効果も少しずつ出てきており、地域が考える学校への協力についての意識が変わりつつあります。 しかし、意見交換を行うにあたり、より意義があるものにするための工夫、行政が主体的に動かず、地域主体で実施できるよう取り組んでいく必要があります。				
今後の方向性	今後とも学校・地域・家庭が共に連携できるよう様々な意見交換の場の設置、その内容の周知徹底、共同事業の支援などに取り組んでいきます。				
H25年度の課題	学校・地域・家庭ともに、意見交換を行うものの、課題の取り組みなどについて、具体的な役割分担までは、できていない現況です。				
『評価委員の意見』 ・人材不足の解決策の一つとして、在籍する児童、生徒の関連する人の活用。 ・団体の課題などの取り組み方法等を指導してほしい。					
教育委員会評価		A			

○重要課題３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(５) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算・決算)	[36] 家庭教育支援事業（生涯学習課：社会教育係） (予算： 351千円 決算： 264千円)				
目 的	乳幼児から思春期の子どもを持つ保護者に対し、さまざまな学習の機会や情報を提供することで家庭の教育力の向上を図ります。				
事業内容	子育て支援講座、親子がふれあえるミニプレーパーク事業、学校等へ家庭教育に関する情報提供、地域における家庭教育新事業を実施します。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 子育て家庭の孤立防止のため地域への意識啓発と、その支援体制の整備が必要です。 【課題等への取り組み】 子育て中の保護者に対し、育児ストレスの解消や子どものふれあいの充実を目指した講座やプレーパーク事業を実施しました。また、それに関わった参加者等が気軽に集まり、意見交換ができるように同窓会などを実施しました。 その中で、子育てボランティアの育成を目指し、様々な事業に協力いただけるよう、周知徹底しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 子どもの学力向上や健全育成には、基本的生活習慣の確立は、必要不可欠であり、そのためには、家庭の教育力向上は急務であります。そのための情報提供や講座の実施し、非常に多くの市民の方々に対し、家庭教育支援を行うことができました。 しかし、男性の参加が少ない、子育てボランティア不足など課題が残りました。事業内容などを考え、更に効率性を高めていきたいと思います。				
今後の方向性	PTAと連携し、家庭全体の教育力向上の努めるとともに、男性が参加しやすい事業となるよう事業の工夫を行ない、男性自体の家庭教育力向上を図っていく必要があります。				
H25年度の課題	家庭教育支援事業における様々な事業へ、男性の参加が少ない状況です。 また、事業自体にボランティアの関わりが少なく、行政が主体的に実施しています。				
『評価委員の意見』 ・男性が参加しやすい時間の設定等環境づくりが必要である。 ・子育てボランティアについては、誰も参加できるような環境づくりが必要である。					
教育委員会評価		A			

○重要課題３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(５) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算・決算)	[37] 青少年健全育成事業（生涯学習課：社会教育係） (予算： 4, 275千円 決算： 3, 955千円)				
目 的	青少年の健全育成のための啓発活動並びに関係機関との連携・協力を図り、青少年の非行防止に努めます。				
事業内容	・嘉麻市少年相談センターを設置し、関係機関と連携しながら少年並びに保護者等からの相談に対応しています。 ・少年補導委員を委嘱し、街頭指導等を実施しました。 また、補導委員の資質向上のための研修会の実施、補導委員による青パト巡回の燃料支援など、補導活動の充実のための支援を行います。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 平成24・25年度に委嘱する少年補導委員の定数（中堅層の確保）、地区割り等を嘉麻警察署と引続き協議する必要があります。 【課題等への取り組み】 2ヵ年の委嘱期間であるため、24年度については嘉麻警察署との協議に留まりました。25年度は、中堅層の補導委員の発掘や嘉麻警察署の補導委員協議会との併合についての協議を行うよう申し合わせをしています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 青少年の健全育成と非行の未然防止には、少年相談センターや補導委員の活動は不可欠です。しかし、少年相談センターの市民の認知度が低く、また相談に対する体制が十分ではありません。 事業自体についても、補導委員48名だけでは、嘉麻市全体を見守ることができず、地域全体で取り組むことが必要であると思います。補導委員を中心にその活動を地域の方々に理解いただき、共に取り組むための環境整備を行っていく必要があります。				
今後の方向性	少年相談センター及び補導委員活動を市民全体に理解いただき、嘉麻市全体で子どもの健全育成に取り組めるよう、環境整備を行います。				
H25年度の課題	少年相談センター、補導委員の認知度不足。また、補導委員の中堅層の確保について、嘉麻警察署や補導委員と協議が必要です。				
『評価委員の意見』 ・重要な事業であり、事業の推進を期待する。 ・少年センター等の活動について、住民への広報が必要である。 ・巡回方法等に工夫が必要である。					
教育委員会評価		B			

○重要課題４ 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(1) 生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備

事業名 (予算・決算)	[3 8] 社会教育関係団体等育成事業（生涯学習課：社会教育係） (予算： 3 4 千円 決算： 1 千円)				
目 的	社会教育関係団体等の育成とその活動の充実に努めるため、各社会教育関係団体等の自立支援及び人材（指導者）の育成を行います。				
事業内容	行政協力を目的に設立された社会教育関係団体をはじめ、各種の関係団体が自主的な会の運営や事業展開が図れるよう、指導助言等支援を行っています。また、社会教育関係団体と連携し、お互いが役割分担を行うなど効率的に事業を展開しています。				
H 2 4 年度の課題と取り組み	【課題等】 社会教育関係団体への加入促進のための活動が必要であります。 【課題等への取り組み】 社会教育関係団体を始めとする地域団体がお互いに助け合えるよう、嘉麻市青少年育成住民会議を中心に支援しました。また、学社連携融合事業の一環として、学校や家庭との意見交換ができる場を設定し、地域の団体と学校、家庭が共に取り組み、互いが連携し助け合いを行い、団体の負担軽減に繋がるように取り組みました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 嘉麻市の地域づくり、教育力向上のためには、社会教育関係団体を始めとする地域の力が必要です。その活動が自主的かつ効率的に運営ができるよう支援をしてまいりました。 継続的な支援のためには、行政のみならず、母体となる団体による支援が必要であると思います。その母体となる団体と連携し、地域全体が効率的にかつ継続的に活動できるよう取り組む必要があります。				
今後の方向性	様々な地域の団体で構成されている青少年育成住民会議と連携し、地域の団体が効果的に自主運営できるよう、支援を行っていきます。				
H 2 5 年度の課題	社会教育関係団体を始めとする地域団体間の連携は、まだまだ不十分であり、互いの活動の負担軽減に繋がるよう連携が、より一層望まれます。				
『評価委員の意見』 ・努力されていると思う。					
教育委員会評価			B		

○重要課題４ 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(１) 生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備

事業名 (予算・決算)	[3 9] 社会教育関係団体活性化補助事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算： 5, 4 3 1 千円 決算： 5, 4 2 6 千円)				
目 的	市民が自主的に活動でき、生涯学習の推進や住民主体の地域づくりを促進に努めます。				
事業内容	団体の申請に基づき、稲築吹奏楽団、市青少年育成住民会議、憶良まつり短歌会、いなつき山笠実行委員会、民俗的伝統行事保存団体 3 団体（碓井地区飯田地蔵祭り、西郷奉納すもう、上臼井神楽まつり）、市子ども会指導者連合会、嘉麻市文化協会、市 P T A 連合会の 1 0 団体に補助金を交付します。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 団体指導者の養成が必要です。各団体とも役員・理事の年齢層が上がり、世代交代ができない状況が見受けられます。 【課題等への取り組み】 全ての団体とは言えないものの、団体の役員と意見交換を行い、補助金に関するヒアリング、後継者育成の必要性などを伝えることができました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 一部の社会教育関係団体とは、意見交換を行うことができたものの、全ての団体に対しては行うことができませんでした。 交付要綱に則った補助金交付も含め、社会教育関係団体が、自主的に運営するための支援を今後とも行っていく必要があると考えます。				
今後の 方向性	社会教育関係団体との繋がりを強化し、活動の活性化、自主運営の推進などに取り組んでいくことで、地域住民による地域づくりを進めていきます。				
H 2 5 年度 の課題	各団体ともに団体の活動目的に沿った活動を行っているものの、全体的に連携し、嘉麻市全体の地域づくりには、十分に寄与できていないと考えます。				
『評価委員の意見』 ・補助金の交付について、広く住民へ周知すべきである。					
教育委員会評価			B		

○重要課題４ 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(２) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[4 0] 社会教育施設整備事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：67,979千円 決算：61,863千円)				
目 的	社会教育施設が、市民の生涯学習の拠点の場となるよう、施設を運営（維持管理）します。				
事業内容	所管施設の管理として、なつき文化ホール・嘉穂生涯学習センター夢サイトかほ・上山田住民ホール・山田市民センター・下山田小学校白馬ホール・山田生涯学習館の運営、維持管理を行います。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 非常に老朽化が進んでいるため、耐震診断や施設の管理補修が必要となります。また、管理を民間に委託しているため、設置者としての考え方や計画が伝わりづらいと思われます。 【課題等への取り組み】 豪雨災害や猛暑などのために想定していない施設の修繕が必要となったものの、緊急的なものから計画を再編し、修繕を行いました。また、職員が定期的に施設を訪問し、課題や意思の伝達などを行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 その地域の方々が生涯学習に取り組めるよう、より快適な施設管理を望まれます。しかし、施設の老朽化のため、施設運営以外に突発的な支出があり、計画どおりに管理できないのが現状です。 しかし、担当職員が定期的に管理人と連絡を取り、少しでも利用者が快適に利用できるよう取り組んでいます。				
今後の方向性	施設利用者が快適に利用できるよう整備を図るとともに、学校や地域と連携し、より多くの市民の方が利用できるよう周知徹底を行います。				
H25年度の課題	より多くの市民の方々に施設のことを知っていただき、利用いただけるよう、施設における事業の実施が必要と考えます。				
『評価委員の意見』 ・住民にとって、重要な施設であり、運営管理の推進を期待する。					
教育委員会評価		B			

○重要課題４ 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(２) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[4 1] ボランティア人材バンク事業（生涯学習課：社会教育係） (予算： 4 3 千円 決算： 0 千円)				
目 的	知識、技能、資格等を有する人に人材バンクに登録してもらい、生涯学習活動支援や地域づくりに貢献いただきます。				
事業内容	市民の生涯学習活動を支援するために、仕事や趣味などを通じて身につけた知識・技術・資格等を有する人に名簿登録していただき、学校や地域のあらゆる活動場で、その培った経験、技術等を活かし地域に還元する「知の循環型社会」の構築を目的としています。なお、社会教育係に配置されている地域活動指導員が人材の発掘、ボランティア活用依頼先とのコーディネートを行います。登録者数 370 名 114 団体 派遣者数 124 回 402 名 対象者数 10,347 名（人材バンク事業で係わった人数）				
H 2 4 年度の課題と取り組み	【課題等】 現在、登録者の大半が高齢者であり、若年層への周知と新たな人材の発掘が必要です。 【課題等への取り組み】 子どもたちが集まる、社会教育事業の中で人材バンクの活動風景が分かる掲示物、人材バンク通信の回覧などを行い、人材バンクの周知を図りました。 また、各地域活動指導員を中心に人材バンクの登録や活用の宣伝を行っています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 地域の方々の教育力向上、子どもたち等へのより内容が深い学習の提供など、地域の方々が有されている知識や特技を活かすことは必要です。 学校や地域の派遣回数は、非常に多いものの地域により偏りが生じます。まだまだ周知が十分にできておらず、子ども会や敬老会などの地域活動の支援を行うものとして、活用しやすい人材バンクづくりを目指していきます。				
今後の方向性	より多くの方々が活躍し、活用できるような人材バンクにすることで、地域全体の教育力の向上を目指します。				
H 2 5 年度の課題	学校や地域への派遣が、まだまだ地域により差異があり、より積極的な周知活動が必要であると思われます。				
『評価委員の意見』 ・活動の場が多いと思われるので、内容の充実が不可欠である。					
教育委員会評価		A			

○重要課題４ 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[4 2] 生涯学習推進事業（生涯学習課：社会教育係） (予算： 3 0, 5 4 2 千円 決算： 2 9, 7 2 1 千円)				
目 的	職員及び地域活動指導員の資質向上や市民ニーズを活かし、生涯学習の推進を図るとともに生涯学習施設を運営（維持管理）します。				
事業内容	社会教育委員会議及び課内会議等の開催。職員、地域活動指導員の研修会や社会教育主事の養成など関係職員の資質向上に努め、また所管施設の管理として、なつき文化ホール・嘉穂生涯学習センター夢サイトかほ・上山田住民ホール・山田市民センター・下山田小学校白馬ホール・山田生涯学習館の運営を行います。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 生涯学習振興計画策定に向けた各係事業の調整と、耐震診断など施設整備の計画が必要です。 【課題等への取り組み】 生涯学習振興計画策定については、各係で基本計画の整備を進めている状況であります。また、施設の整備については、施設の統廃合・廃止等、生涯学習課の考えとして市民の生涯学習推進と活動、成果の発表の場であることから存続の方向で取り組んでいます。また老朽化した施設についても計画的に設備の整備を行っています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 この事業は、社会教育関係職員の資質の向上に関する研修会等は計画どおりに実施しました。また、施設についても市民の立場で整備に努めました。				
今後の 方向性	継続して関係職員の資質の向上に努め、教育アクションプランに連動した事業展開を行っていきます。所管施設についても、市民が活発に生涯学習を展開できるよう整備に努めます。				
H 2 5 年度 の課題	職員数適正化計画により、各課の職員数が削減される中、社会教育に精通した人材の育成を行うことで、嘉麻市の社会教育の向上を目指します。				
『評価委員の意見』 ・職員及び地域活動指導員の研修等の実施をお願いします。 ・住民が利用しやすい施設づくりが必要である。					
教育委員会評価			B		

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[4 3] 青少年体験活動推進事業（生涯学習課：社会教育係） (予算： 1, 2 8 0千円 決算： 1, 0 6 9千円)				
目 的	子どもたちの体験活動を通して、生きる力や表現力の向上、また基本的な生活の確立を目指します。				
事業内容	実行委員会と連携し実施している『通学合宿事業』、小学生が題材に沿ってエッセイを書く『わたしのエッセイ事業』、次世代のリーダーの育成を図る『ジュニアリーダー研修会』など、子どもの体験活動を中心に実施しました。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 事業で連携している社会教育関係団体の人材不足が課題です。地域の方々に事業への参画を依頼し、人材の確保を強化します。 【課題等への取り組み】 事業を団体と連携し実施していくうえで、一個人に負担がかからないように心掛け、団体の方への理解を求めました。また、より多くの方が事業に関われるよう行政が主体的に行うのではなく、協議を何度も重ねながら実施することができました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 子どもたちへの体験活動については、生活体験や野外体験などを実施することができました。その中で、行政が主体的に行うのではなく、地域の方々が子どもたちと関わることで、より効果的な事業を実施することができました。				
今後の 方向性	現在行っている子ども体験事業を、行政主体から地域主体へ移行することにより、地域の子どもは地域で育てるという意識の向上を図り、より多くの子どもたちが健全に成長できるように取り組みます。				
H 2 5 年度 の課題	行政が主体的に事業計画を立てるのではなく、子どもたちに必要な体験活動を地域、学校、家庭と共に考え、共に実施していくことが必要です。				
『評価委員の意見』 ・中学生を対象とした体験活動が必要であると考える。 ・人材確保につながる事業や講座の実施が必要である。 ・意識の向上や責任感の養成に大変有意義な事業である。					
教育委員会評価		A			

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題４ 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[4 4] 公民館・分館等の連携強化推進事業 (生涯学習課：中央公民館係) (予算： 9, 0 7 4 千円 決算： 8, 7 1 4 千円)				
目 的	各地区公民館の利用者が安心して気持ちよく学習等が行われるよう、また、地域の拠点として機能するよう、施設の維持管理を行います。				
事業内容	分館及び自治公民館の情報共有と協同を図るとともに、将来の嘉麻市公民館像など意見交換等討論する場を確保しながら、共通理解を深め、地域間の交流が活発に行われることで、地域間の差異の改善に努めます。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 経年劣化により補修等必要な施設について、優先的に改修工事等を行いつつ安心して利用できるよう改修計画を策定するとともに、公民館組織体系の見直しと活動等の支援を行いながら、地域の活性化を図る必要があります。 【課題等への取り組み】 稲築地区公民館、下山田分館、鴨生第一公民館等の修繕や改修工事を行うとともに、情報の共有や協同を図るための意見交換等討論する場として研修会を開催しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 地域のコミュニティの核である公民館は、行政と住民とのふれあいの場であり、様々な支援を行いながら住民の生涯学習や諸活動を支えることで、将来の人づくり、協働のまちづくりにつながり、地域活性化が図られていきます。 このことから、情報の共有と協同を図るために、研修会など意見交換等討論する場の確保に努め、地域間の差異の改善を図りつつ、地域コミュニティを構築に努めていきます。また、施設の老朽化等による改修も同時に、他の施設との調整を図りながら計画的に実施していきます。				
今後の 方向性	公民館は生涯学習、地域コミュニティの拠点としての機能・役割があることから、組織強化を図るとともに、定期的な会議の開催と公民館事業の周知徹底に努めながら、地域間の差異の改善を図り、地域コミュニティの構築に努めていきます。				
H 2 5 年度 の課題	各地区の実情により情報の共有や、協同が図られるまでには至っていないのが現状であることから、嘉麻市に似合った基本方針を明確にし、共通認識と共通理解を深めながら、公民館組織強化を図っていく必要があります。				
『評価委員の意見』 ・ 公民館の格差是正が必要である。					
教育委員会評価		B			

○重要課題４ 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	【４５】分館及び自治公民館等活動費補助事業 (生涯学習課：中央公民館係) (予算：１４，２８５千円 決算：１４，０１７千円)				
目 的	分館及び自治公民館への各種補助を行い、地域コミュニティの拠点づくりを図ります。				
事業内容	分館運営費補助金、自治公民館活動費補助金、自治公民館修繕料補助金、自治公民館付属施設設置補助金を交付し、公正公平な学習の場が提供できるよう地域コミュニティの拠点としての運営を支援します。				
H２４年度の課題と取り組み	【課題等】 分館運営費補助金、自治公民館活動費補助金算出基準に不公平感があるとの要望から、見直しを行い統一した認識の下での事業展開を行い、地域活性化を図ります。 【課題等への取り組み】 分館運営費補助金、自治公民館活動費補助金算出基準の見直しをはじめ、自治公民館（公民館類似施設等）維持管理等修繕料補助の範囲の見直しを行いながら、運営や活動に対して支援を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 地域コミュニティの醸成は、地域住民の参画なしには考えられず、その活動の拠点づくりのためには、支援は必要であると考えます。 しかし、各種補助を行い、各地域が公民館活動に取り組んでいますが、地域により活動の差異が生じているのは否めません。そのことを改善していくには地元との十分な協議や理解がなくては進んでいけないのも事実であります。 そのためにも、市として今後の嘉麻市のあり方についての方向性も明確にした上で、地元との協議に努めたいと考えます。				
今後の方向性	公民館は生涯学習、地域コミュニティの拠点としての機能・役割があるため継続した運営が必要であります。再認識はもちろんのこと、組織体系の統一化を図ることで、一定の事業展開が行え、後継者育成を含めた人づくりやまちづくりに努めながら地域活性化につなげたいと考えます。				
H２５年度の課題	分館運営費、自治公民館活動費の補助金算出基準等の見直しを行うことは、各地区の活動内容等に違いがあることから容易に調整できることではないと考えています。そのためにも地域ごとの組織体系の現状を理解してもらうことで、総合的な組織改善が図られていくと考えます。				
『評価委員の意見』 ・地域間格差の是正、公平な運営を図ってほしい。					
教育委員会評価		B			

○重要課題４ 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)		[46] コミュニティ活動支援 (生涯学習課：中央公民館係) (予算： 30千円 決算： 21千円)				
目 的		地域と公民館の「協働」による公民館運営の視点から関係団体や公民館を支える人たちと、公民館の新たな可能性を模索し、これからの公民館づくりを目指すネットワークの構築を図ります。				
事業内容		地域ぐるみで青少年の健全育成に努めるとともに、地域のつながりを強め地域力の向上を図ることを目的に行われる地域の伝統文化や、世代間交流事業等の活動を支援します。				
H24年度の課題と取り組み		【課題等】 地域ぐるみで青少年健全育成に努めるとともに、地域の大人も子どもと関わることで互いにつながりが深まり、地域力の向上が図られるため、地域・学校・行政の協働での事業の推進や子どもと地域の世代間交流の推進に努めます。 【課題等への取り組み】 公民館は高齢者が使用するイメージが固定化していることから、その脱却に努めるとともに、青少年健全育成を推進し次世代育成、後継者育成を図りながら組織の強化を行いました。				
事務局 自己評価		評価項目	A	B	C	D
		事業の必要性	○			
		事業の効果		○		
		事業の効率性		○		
		【自己評価の根拠】 公民館運営には地域住民の参画なしには考えられず、現在の公民館を取り巻く状況を考慮しても、ますますその重要性が取り上げられます。また、地域コミュニティを構築していく上でも、公民館関係者及び職員の資質向上は必要不可欠であります。 ひろば事業をはじめとする青少年健全育成事業は、地域・学校・行政の協働で事業を推進していく必要があり、組織体制強化はもちろんのこと、統一した認識の下での取り組みが図られなくてはならないと考えます。				
今後の方向性		各地区で実施されている事業・活動を支援するとともに、地域ぐるみで活動等を広げていきながら、地域コミュニティの再構築をはじめ地域力の向上を図ります。				
H25年度の課題		嘉穂地区においては、小学校が廃校となる分館では、地域コミュニティの衰退（低下）の歯止めの手段としても役立つ事業にしたいと取り組んでおり、その支援や対策に対して指導・助言を行っていきます。				
『評価委員の意見』 ・自分たちの住んでいる地域のコミュニケーションを高める場として、継続する活力の充実、強化が必要である。						
教育委員会評価			B			

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算・決算)	[4 7] 公民館事業（生涯学習課：中央公民館係） (予算： 3, 8 7 0千円 決算： 2, 8 2 3千円)				
目 的	地域住民の生活に根ざした教育・文化に関する各種の事業・講座を行い、住民相互の交流と教養の向上、健康増進などを図り生きがいづくりを行います。				
事業内容	中央公民館：成人式、公民館関係者研修会等 嘉穂地区公民館：ときめき学習、ガーデニング講座、盆踊り講習会等 碓井地区公民館：押し花講座、陶芸教室、盆踊り講習会等 稲築地区公民館：エコ・リサイクル教室、そろばん教室、寺小屋いなつき等 山田地区公民館：山田サルビア大学、3ちゃんグラウンドゴルフ大会等				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 地域住民のニーズを把握し、課題解決に向けた学習メニューの取り組みへと見直しながら、公民館利用者の拡大、講座内容の拡充を図ります。 【課題等への取り組み】 講座内容、講座対象者、募集方法などの確にしたチラシを作成し、公民館は高齢者が使用するといった固定化したイメージを取り除きながら、市民への周知徹底に努めるとともに、地域活性化をはじめ、地域の架け橋となるべく役割を果たすよう取り組みました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 公民館講座をはじめとする各種事業は、生涯学習の一環であり、多様な学習機会を提供することにより、個々に学ばれたことが市民参画という形で地域に還元され、地域コミュニティの活性化につながると考えています。 また、大人限定の講座にとどまらず、夏休み期間等子どもを対象にした事業を通して、世代間交流の場となり地域活性化につながるとともに、公民館利用団体との連携した講座は、団体会員の高齢化、新規会員減少に伴う組織の衰退化を避ける意味でも一つの支援策となると考えています。				
今後の 方向性	地域住民のニーズを把握し、課題解決に向けた学習メニューの取り組みに答えた講座かどうかを検証しながら、公民館利用者の拡大に努めます。				
H 2 5 年度 の課題	各種事業や講座を通してのふれあい、生涯学習の推進（住民主体での人づくり・まちづくりの展開）を他の関係機関・部署と連携した事業の推進に努めます。				
『評価委員の意見』 ・講座内容は、充分検討されていると思うが、出席者の増大を計ることが、課題でありこれには、地域間の連携が重要であると思う。					
教育委員会評価		B			

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(3) 図書館の利用促進

事業名 (予算・決算)	[4 8] 図書館施設管理運営事業 (生涯学習課：図書館係) (予算： 8 9, 6 9 9千円 決算： 8 5, 0 8 3千円)				
目 的	図書館を適切に管理運営することにより、読書環境の整備・充実を図り、快適かつ安心して利用する場を提供します。				
事業内容	図書館職員又は受託業者が、施設、資料、システムを管理し、地域住民に応じた資料提供サービスを行っています。 ・ 図書館施設の保守点検・清掃 ・ 図書館資料の選書、分担購入 ・ 移動図書館車の運行 ・ 図書館だよりの発行 等				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 嘉麻市の図書館に相応しい運営方法や組織体制の充実について、総合的に検討を進める必要があります。現在の図書館システムが、導入時から年数が経過していることから、新たなシステムへの更新を行う必要があります。 他の3館に比べ規模の小さい稲築図書館について、充実を図るための方策を検討する必要があります。 【課題等への取り組み】 システム更新については、平成25年度当初予算に必要な予算を計上し、業者選考を含め計画的に実施していきます。稲築図書館については、稲築地区への移動図書館車の運行拡大により、利便性の向上に努めました。平成25年度はさらに運行を増やす予定になっています。 閲覧室の確保については、稲築地区公民館との複合施設であるため会議室が限られており、継続して調整・検討を行います。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 赤ちゃんからお年寄りまで、全ての嘉麻市民が利用できる図書館が身近にあることで、「地域の知の拠点」となっています。 貸出冊数及び利用者数は前年度に比べ図書館ごとに差はありますが、新たな市民の利用が増えています。				
今後の 方向性	継続して図書館を適切に管理運営し、貸出冊数、登録者の増加を目指します。				
H 2 5 年度 の課題	図書司書の資質向上を図るとともに、図書館未利用者への積極的なPRに取り組めます。図書館システムの更新について、安全かつ利便性の向上を目指し新システムの構築を行います。				
『評価委員の意見』 ・ 図書館の利用率向上のための、事業の充実が必要である。					
教育委員会評価		B			

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題４ 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(３) 図書館の利用促進

事業名 (予算・決算)	[4 9] 読書活動推進事業 (生涯学習課：図書館係) (予算： 6 5 7 千円 決算： 5 9 4 千円)				
目 的	おはなし会、読書講演会等を開催することによって、市民の読書活動を推進し、図書館利用を促進します。				
事業内容	赤ちゃんからお年寄りまで、様々な年代に対応した読書活動推進事業を実施します。 ・おはなし会（乳幼児向け、児童向け） ・ブックスタート ・雑誌リサイクル市 ・読書講演会 等				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 子どもたちにはおはなし会等で本の楽しさを伝え、大人には読書の大切さを感じてもらい、図書館の積極的な利用につながるよう事業の充実を図る必要があります。 【課題等への取り組み】 絵本の読み聞かせを中心として、科学あそびや工作など子どもたちが興味を引くような事業を実施しました。美術館や子育て支援センター等他の機関との連携協力を行い、利用促進を図りました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 読書活動は、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものであることに鑑み、各種事業を実施しています。これにより読書の楽しさ、習慣づくり、必要な知識や教養の提供ができています。				
今後の 方向性	P R の充実を図り、更なる読書活動推進事業の推進を図ります。				
H 2 5 年度 の課題	平成 2 4 年度に策定した、「嘉麻市子ども読書活動推進計画」に基づき、おはなし会やブックスタート等の内容を充実させ、参加者の定着化や増加を目指すとともに、図書館の利用促進を図ります。				
『評価委員の意見』 ・「おはなし会」は、地区を越えた参加者があり、大変良かった。 ・ブックスタート事業は、非常に大きな意味を持っており、今後も継続してほしい。					
教育委員会評価		B			

○重要課題４ 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(3) 図書館の利用促進

事業名 (予算・決算)	[50] 図書館ボランティア養成事業 (生涯学習課：図書館係) (予算： 95千円 決算： 70千円)				
目的	図書ボランティアの養成、活動支援を行います。				
事業内容	図書ボランティア連絡協議会の活動支援、ボランティア養成講座の開催、ボランティアサークルによるおはなし会、学校での読み聞かせ等の活動支援を行います。 ・嘉麻市図書ボランティア連絡協議会（総会、研修会、交流会） ・ブックスタートボランティア養成講座、朗読ボランティア養成講座、図書ボランティアサークルの支援、図書ボランティア主催のおはなし会への参加				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 ボランティア養成講座の開催が、確実にボランティアの人材育成につながるような受講者に対するフォローアップの取り組みが必要です。 【課題等への取り組み】 ブックスタートボランティア養成講座、朗読ボランティア養成講座を開催し、図書ボランティアの養成、活動支援を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 読書推進を図る上で、ボランティアの協力は、必要不可欠です。ボランティアの協力を得ることによって、利用者の裾野を広げることができます。 ボランティアの協力、活動を通じて世代間の交流もできており、充実した事業が実施できています。				
今後の方向性	市民の継続的な読書活動推進のため、事業を継続していきます。				
H25年度の課題	新規のボランティア開拓を図り、既存ボランティアの資質向上を目指します。				
『評価委員の意見』 ・ボランティアの養成をしてほしい。					
教育委員会評価		B			

○重要課題５ 体力及び運動能力向上の推進

(１) スポーツ推進計画の策定

事業名 (予算・決算)	[5 1] スポーツ推進計画の策定（生涯学習課：スポーツ振興係） (予算： 6, 6 2 6千円 決算： 0千円) ※予算については、平成 25 年度へ繰越				
目 的	本市のスポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために、スポーツの推進に関する基本的な計画を策定します。				
事業内容	スポーツ推進審議会に諮問し、平成 2 4 ・ 2 5 年度の 2 カ年で、計画の策定を行います。				
H 2 4 年度の課題と取り組み	【課題等】 本市の実情に即したスポーツ推進計画を策定するため、実情を把握することです。 【課題等への取り組み】 住民アンケート調査等の各種調査とその分析を行い、実情を把握しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 嘉麻市のスポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画の策定であり、スポーツ政策の具体的な方向性を示す重要な指針となることから、必要性・効果・効率性それぞれ高いと考えます。 平成 2 4 年度の計画策定スケジュールも概ね達成しています。				
今後の方向性	各種調査を分析し、そこから得られた情報を審議会で審議します。				
H 2 5 年度の課題	乳幼児から高齢者までの施策を構築することです。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		A			

○重要課題５ 体力及び運動能力向上の推進

(2) 子どもの体力・運動能力向上の推進

事業名 (予算・決算)	[52] ゴールデンエイジプロジェクト (生涯学習課：スポーツ振興係) (予算： 3, 998千円 決算： 3, 399千円)				
目的	徳島大学大学院 荒木秀夫教授のコオーディネーション理論に基づいた運動指導で、豊かな感性、知性、運動をもった子どもたちを育みます。				
事業内容	嘉麻市モデルといわれる0歳児から高校生までの脳と身体の発育・発達に応じたプログラムを構築し広く普及させます。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 “嘉麻市モデル”の年代ごとの運動プログラムを公立保育所から実践し、各年代に広く普及させるとともに、その効果を検証するために体力テストの実施・分析が必要です。 【課題等への取り組み】 荒木教授と子ども育成課、NPO 法人との連絡調整を行いながら、公立保育所での運動指導や保育所職員研修会を開催し、保育士のスキルアップと保育に関する相談を実施しました。 スポーツ推進委員と連携し親子で運動を行う「運動能力アップ親子塾」を開催し、コオーディネーションの実践と知識の普及を行いました。 広報誌で子どもの発育発達について荒木教授に執筆していただきました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 検証を行うために実施した体力測定（5月、9月、2月に実施）の結果を荒木教授に分析を依頼しました。すべての種目において全国平均を上回って、特にコオーディネーション系（バランス・身のこなし）が高いという分析結果が出ています。荒木先生によれば、豊かな感性、知性、運動を生み出すと言われています。 その検証は、広報24年11月号、25年6月号に掲載しているとおり、体力向上だけではなく情緒面、コミュニケーション能力、考える力等々に顕著に表れています。 また、北京オリンピック銅メダリスト朝原宣治氏と荒木教授による“親子運動教室”を実施し、科学的知識と実践法を指導していただきました。				
今後の方向性	嘉麻市モデル（プロジェクトK）は市内の全ての子どもたちが対象としますので、横と縦へコオーディネーショントレーニングを繋げていきます。				
H25年度の課題	私立保育園、幼稚園及び小学校へ繋げていくことが課題です。				
『評価委員の意見』 ・大変評価できる事業であるので、今後も継続して実施してほしい。					
教育委員会評価		A			

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題５ 体力及び運動能力向上の推進

(２) 子どもの体力・運動能力向上の推進

事業名 (予算・決算)	[53] コーチングスキルアップ (生涯学習課課：スポーツ振興係) (予算：600千円 決算：600千円)				
目 的	スポーツ指導者の指導力向上を図ります。				
事業内容	大学教授を講師に迎えてスポーツ指導者、スポーツ推進委員、保育所、教員を対象とした研修会を実施します。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 学校、PTA、体育協会、スポーツ推進委員等と連携した取り組みを行う必要があります。 【課題等への取り組み】 学校、保育所、スポーツ推進委員と連携して研修を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 脳や身体の発達に応じた運動を指導することが重要であり、そのためには、科学的知識及び実践法を習得することが、重要であると考えます。 なお、研修等を実施し、スポーツ指導者、保育士、教員の指導力向上も図っていきます。				
今後の方向性	科学的に証明された、少年少女期の運動の重要性と危険性を広く指導者、市民に啓発していきます。				
H25年度の課題	指導者講習会はもとより、保護者への啓発が課題です。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		B			

○重要課題５ 体力及び運動能力向上の推進

(３) スポーツ活動の活性化

事業名 (予算・決算)	[54] スポーツコミュニティ創造事業 (生涯学習課:スポーツ振興係) (予算: 個別予算なし 決算: 個別予算なし)				
目 的	市民が身近な場所で運動・スポーツに親しむことができる機会を提供し、スポーツ人口の増加、健康増進を図るとともにスポーツによるコミュニティを創造します。				
事業内容	運動・スポーツ教室の開催及びサークル設立に向けた支援を行うとともに、市民の誰もが身近で活動できる総合型地域スポーツクラブの育成及び設立の支援を行います。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 運動・スポーツに対しての市民ニーズを把握及び総合型地域スポーツクラブ設立に向けたニーズの把握を行っていく必要があります。 【課題等への取り組み】 教室実施の際アンケート調査を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 市民がスポーツ活動を行える環境を整備することは必要であると考え、運動・スポーツ教室終了後にアンケート調査を行い、市民ニーズの把握に努めました。既存の総合型地域スポーツクラブは自主的に運営・活動を行っており一定の効果はあるものと判断できます。効率については、各総合型地域スポーツクラブが自主的に活動をしており効率は高いと考えられます。				
今後の方向性	「運動能力アップ親子塾」でのアンケート調査の結果、子どもの運動能力、コミュニケーション能力、考える力、情緒面等に大きな効果が表れている徳島大学大学院荒木秀夫教授のコオーディネーション理論に基づいたスポーツクラブの要望が高いことから、設立に向けた取り組みを行っていきます。				
H25年度の課題	スポーツによるコミュニティづくり及び公立保育所での運動指導を行っている NPO 法人と連携し、総合型地域スポーツクラブの設立に向けて準備作業を進める必要があります。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		A			

○重要課題５ 体力及び運動能力向上の推進

(３) スポーツ活動の活性化

事業名 (予算・決算)	【５５】 体育施設管理運営事業（生涯学習課課：スポーツ振興係） (予算：１４１，２４１千円 決算：１３９，３３７千円)				
目 的	自主運動の場を提供し、市民の健康増進を図ることを目的としています				
事業内容	社会体育施設の管理・運営・整備を行いました。(２８施設)				
H２４年度の課題と取り組み	【課題等】 住民のニーズを捉えて既存スポーツ施設の改善を図っていく必要があります。また、利用率の低い施設の稼働率を上げていく必要があります。 【課題等への取り組み】 嘉穂総合体育館をフットサル対応の体育館に改修したことで、福岡県サッカー協会とフットサル県リーグの招致活動を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 体育施設の管理・運営を行うことは、市民の健康増進、スポーツ活動の拠点施設として、そして、スポーツによる多くの交流人口を生み出すものとして必要性の高い事業です。 特に、福岡県サッカー協会へフットサル県リーグの招致活動を行った結果、県リーグの招致に成功し、さらに同協会のホームページに試合会場として載ったことで、市外からの利用者が増加し、稼働率も大幅に向上しました。				
今後の方向性	老朽化した施設の年次的な修繕（リフォーム）するというこれまでの考え方から、時代に合わなくなった施設の機能や性能を少ない予算で時代の変化に合わせて改修し、建設当初の目的と異なる施設にするという（リノベーション）方向で施設の改修を行います。				
H２５年度の課題	施設の利用状況を勘案しながら、リノベーションという考え方を取り入れた施設の管理運営を行うことや利用者から改善要望がある現行の施設予約についての改善が課題です。				
『評価委員の意見』 ・各地区の施設については、リノベーションも視野に入れ、統廃合等を考える時期である。					
教育委員会評価		B			

○重要課題５ 体力及び運動能力向上の推進

(３) スポーツ活動の活性化

事業名 (予算・決算)	[5 6] スポーツ大会支援事業（生涯学習課：スポーツ振興係） (予算： 7, 6 5 4 千円 決算： 6, 5 5 6 千円)				
目 的	各種大会、団体を補助することでスポーツの振興を図ることを目的としています。				
事業内容	各種大会への補助金の支出と運営の補助を行うとともに、自主運営を行う体育協会への補助金の支出を行っています。				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 体育協会指導者の育成を図ってもらうとともにスポーツ人口の増加を図ってもらうよう協議していく必要があります。 【課題等への取り組み】 団体との協議を継続していきます。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 市外、県外から多くの参加者が訪れる各種大会を支援することは、交流人口を生み出す効果があり、必要性は高いと考えられますが、「楽しく走ろう福岡子ども駅伝 in かま」は、市内に子どもたちの参加が激減しています。また、「嘉麻シティマラソン」については、参加者が減少傾向にあります。 体育協会への補助金の支出については、加盟競技団体の育成、スポーツの市民への普及、市民総合体育大会の運営という観点から、事務の効率性は、高く必要な事業と考えます。				
今後の 方向性	多くの市民が参加できるような大会運営を補助団体と検討していきます。				
H 2 5 年度 の課題	指導者の育成はもとより多くの市民が気軽に参加できるような大会やスポーツ人口の増加を図る教室やイベントを補助団体と協議していく必要があります。				
『評価委員の意見』 ・他課との連携を取りながら、市民の健康増進に努めてほしい。 ・市民が参加しやすい工夫をしてほしい。					
教育委員会評価		A			

○重要課題５ 体力及び運動能力向上の推進

(４) スポーツ大会の誘致

事業名 (予算・決算)	[5 7] スポーツ大会誘致事業（生涯学習課：スポーツ振興係） （予算：個別予算なし 決算：個別予算なし）				
目 的	九州大会、県大会等を招致し交流人口を創出することで、地域に経済効果と住民に誇りをもたらします。				
事業内容	各種団体等へはたらきかけ、県大会レベル以上の大会を嘉麻市で開催します。				
H 2 4 年度の課題と取り組み	【課題等】 フットサル福岡県リーグの誘致は行えましたが、来られた方たちの宿泊施設と食事を摂る場所がありません。 【課題等への取り組み】 産業振興課との協議を行う等、課題の共有を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 テコンドーの交流大会（九州各県、中国、関西、関東から参加）、福岡県大会の招致に続き、フットサル県リーグ（2 部、3 部、女子）の招致に成功しました。福岡県サッカー協会のホームページに試合会場として載ったことで、市外からの利用者が増加し、稼働率も大幅に向上しました。				
今後の方向性	フットサルの県 1 部リーグの招致活動に取り組み、市民に「見るスポーツ」を提供するとともに、大会が開催されていることの周知を行います。				
H 2 5 年度の課題	大会等を招致し多くの交流人口を創出したときの課題は、飲食の不便さがあります。飲食の提供についての協議を関係各課及び団体と協議を行う必要があります。				
『評価委員の意見』 ・ 宿泊施設等の問題は、嘉麻市全体の課題であり、他課と連携をして取組まなければならないと考える。					
教育委員会評価		A			

○重要課題6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(1) 人権・同和教育推進事業

事業名 (予算・決算)	【58】人権・同和教育推進事業（学校教育課：教務係） (予算： 個別予算なし 決算： 個別予算なし)				
目 的	福岡県人権教育・啓発基本指針及び嘉麻市人権教育・啓発基本指針に基づき、学校教育活動全体を通して、児童生徒が共生の心を身につけるとともに、自分らしさや能力を十分に発揮し、人権問題を主体的に解決していく力を身につけることができるよう指導していきます。				
事業内容	学校における人権教育の時間の充実を図ります。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 人権課題の解決に向け、児童生徒が自分で「感じ、考え、行動する」主体的・実践的な行動をとることができるよう、人権教育の推進を図っていく必要があります。 【課題等への取り組み】 人権意識等を育み、人権課題の解決に向けた、実践力へとつなげていくために、人権に関する知的理解に加え、人権感覚を養うことが重要です。人権感覚は、言葉だけで教えることでなく、児童生徒が自ら主体的に、しかも学級の他の児童生徒たちとともに学習活動に参加し、協力的に活動し、体験することをおすすめ学習方法を推進しました。また、家庭・地域・関係機関の人々をはじめ多くの人々と連携をとり、人権教育の推進を図りました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 道徳の時間の充実をはじめとし、あらゆる教育活動を通じて、人権感覚の定着の取り組みを行いました。その結果、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることについては、理解できるようになりました。様々な状況下で、児童生徒が自分で「感じ、考え、行動する」主体的・実践的な行動が見えはじめています。				
今後の方向性	学校でも、人権感覚を身に付けさせる取り組みを推進していきますが、単なる知識に止まらず、より児童生徒に主体的な学習を可能にするために家庭・地域・関係機関の人々をはじめ多くの人々と連携をとり、児童生徒の発達の段階に応じた系統的な取り組みを推進していきます。				
H25年度の課題	人権課題の解決に向け、児童生徒が自分で「感じ、考え、行動する」主体的・実践的な行動をとることができるよう、人権教育の推進を図っていく必要があります。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		B			

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(2) 社会教育における人権・同和教育推進及び支援

事業名 (予算・決算)	【59】人権学習推進事業（生涯学習課：人権・同和教育係） (予算：2,454千円 決算：2,391千円)				
目的	同和問題をはじめ女性、子ども、高齢者、障がい者、アイヌの人々、外国人、H I V感染者など、人権尊重の社会の実現に向け、嘉麻市人権教育・啓発基本方針に基づき、社会教育における人権・同和教育を一層推進するために、市内の各種団体等の協力を得ながら、行政区単位地、企業内、団体・サークル等の人権・同和问题研修会を実施します。また、関係行政機関及び地域活動指導員（人権・同和教育指導員）との連携を図り、社会教育における人権に関する学習の推進に努めます。				
事業内容	嘉麻市の人権・同和教育の推進を図るため、市内各行政区をはじめ、団体・サークル等、企業や市職員の人権・同和问题研修会の開催を推進し、人権・同和問題に関する意識の向上を図ります。学校における人権教育の時間の充実を図ります。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 企業内人権研修会の開催、関係各課との連携、職員の資質向上 【課題等への取り組み】 誘致企業等を主体に、個別訪問や文書による人権研修会の開催をお願いしました。また、各地区行政区及び団体・サークル等には、資料持参して直接お願いをし、回れない所は文書等の送付により、人権研修会の開催をお願いしました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 人権教育・啓発の役割は、行政が取り組む人権施策の普及に地域住民の理解協力を得ることが大切です。そのため、市民一人一人が、人権問題について正しい認識と理解を深め、「差別をしない」から「差別をさせない」との意識が日常生活の行動等に確実に根付くよう啓発を推進し、住民の人権意識が向上するよう努めています。また、地域・企業・団体・サークル等個別的な研修会を数多く開催し、住民の人権意識の向上を図りました。今回は、行政区単位の研修数が増加傾向にあります。（11から20に増）				
今後の方向性	地域・企業・各団体における人権が守られ、お互いが尊重しあい、差別のない社会の構築に向けた取り組みを推進し、同和問題をはじめ、あらゆる人権問題に係る啓発事業の一環として実施し、市民の人権意識高揚を図りたいと思います。				
H25年度の課題	関係各課と連携により、地域・企業・各団体に対し、人権研修会の開催をあらゆる機会を活用し、周知していきます。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		B			

○重要課題6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(2) 社会教育における人権・同和教育推進及び支援

事業名 (予算・決算)	【60】解放子ども会育成事業（生涯学習課：人権・同和教育係） (予算： 8, 409千円 決算： 7, 333千円)				
目 的	解放子ども会は、仲間づくりや基礎学力を培いながら、地域と家庭との連携を図り、嘉穂解放子ども会の再開を目指します。合宿研集会では、小中学生が寝食を共にし、学習や活動を通して人権学習の高揚を図り、社会見学は、子どもや指導者等が歴史や文化を学び体験から見識を深めます。フィールドワークは、差別の現実を認識し、人権・平和の大切さを学びます。解放子ども会祭や実践報告会は、1年間の実践発表の場とします。				
事業内容	稲築・碓井地区において、解放子ども会を開催し人権・同和教育問題についての学習を行っています。 (1) 解放子ども会の開催（開講式を含む。） (2) 解放子ども会合宿研修会の開催 (3) 解放子ども会社会見学会の開催 (4) 解放子ども会フィールドワークの開催 (5) 解放子ども会祭り（碓井地区）・実践報告会（稲築地区）の開催				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 解放子ども会の育成と嘉穂地区の再開、活動や各研修会等の実践 1年間の取り組みの整理と実践発表 【課題等への取り組み】 解放子ども会指導者連絡協議会等の設立を呼びかけ、育成等に取り組むとともに、解放子ども会祭りや実践報告会で1年間の総括を行っています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 解放子ども会では、学校教育や社会教育との連携や交流を促進することで情報の共有化が図れ更なる事業の推進が期待できます。 合宿研修会を開催の実施は、小・中学生が寝食、学習、野外体験活動を共にすることで、連携や交流を深め自主性を深めるなど、学び得ることは多く事業効果も高いと思われます。また、社会見学やフィールドワークを行い、他地域の文化や歴史にふれ、差別の現状、人権・平和の大切さを学ぶ場としています。解放子ども会祭りや実践報告会では、1年間の総括を行いながらふり返りの場とし、次年度の学習につないでいます。				
今後の方向性	解放子ども会については、稲築及び嘉穂地区について育成等を推進します。				
H25年度の課題	稲築地区では解放子ども会のさらなる育成の推進と、嘉穂地区解放子ども会の再開を目指し、現状の聞き取りを含む調査等を行っています。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		B			

○重要課題6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(2) 社会教育における人権・同和教育推進及び支援

事業名 (予算・決算)	【6 1】解放学級育成事業（生涯学習課：人権・同和教育係） (予算： 1, 7 0 3千円 決算： 1, 5 5 7千円)				
目 的	同和問題をはじめ女性、子ども、高齢者、障がい者、アイヌの人々、外国人、H I V感染者など、人権尊重の社会の実現に向け、嘉麻市人権教育・啓発基本方針に基づき、あらゆる差別をなくすことができるよう人権尊重の社会の実現を目指して、自らの人権意識を高めます。また、地域住民との交流や地域活動指導員（人権・同和教育指導員）等との連携を深め、人権・同和問題についての相互理解と連携意識の高揚を図ります。				
事業内容	稲築・碓井・嘉穂地区において、解放学級・識字学級を開催し、人権・同和問題についての学習を行っています。 (1) 解放学級開講式の開催 (2) 解放学級・識字学級の開催 (3) 解放学級合同研修会の開催 (4) 解放学級実践報告会・研修会の開催				
H 2 4 年度 の課題と 取り組み	【課題等】 解放学級生の高齢化と参加者数減少 解放学級・識字学級の目的の明確化 【課題等への取り組み】 高齢化等により、学級生の減少が進んでいるため、若年層参加への呼びかけを行っています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 解放学級・識字学級及び解放子ども会を開催することで、学級生一人一人が、人権問題について更なる正しい認識と理解を、より深めることが出来ました。さらに、地域住民・団体との交流会を開催することで、お互いの理解と心のつながりを深め、思いやりの心等を養うことができ、事業効果も高いと考えます。				
今後の 方向性	解放学級は現状維持をしながら、若い世代の取込みも含め今後も継続して行います。				
H 2 5 年度 の課題	解放学級参加者の高齢化にともない、若年層の取込みを推進します。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		B			

○重要課題7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算・決算)	【62】文化芸術活動推進事業（生涯学習課：美術館係） (予算： 個別予算なし 千円 決算： 個別予算なし 千円)				
目 的	美術団体の主体的な活動の支援や、文化芸術活動の推進を図るとともに、創作展示活動の場の提供及び子どもたちが感性を磨き、考える力、表現力などを学ぶ芸術鑑賞機会の充実を図ります。				
事業内容	美術協会など主体的な活動を行う団体と連携協力を図り、市の文化団体などの展示活動への協力、支援を行います。 また、サークル等のアトリエでの創作活動を支援します。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 ・アトリエ、展示室5の活用が必要です。 ・アトリエでの学習活動の支援が必要です。 【課題等への取り組み】 アトリエ、展示室5については、嘉麻市美術協会など8団体による展覧会などでの活用がありました。市が共催している展覧会については、展示方法等についてアドバイスをを行いました。 また、6団体が継続してアトリエでの学習活動を行っています。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 市美術協会、市文化協会など関係団体や教育委員会分室と連携して展示活動への協力、支援を行いました。 アトリエは、年間を通して学びの場として活用が図られています。 また、保育園児や小学生が見学に来館するなど、子どもたちの芸術鑑賞の機会を提供することができました。				
今後の方向性	今後も主体的、自主的に文化芸術活動を行うサークルや団体を支援し、子どもたちの芸術鑑賞の機会の充実を図ります。				
H25年度の課題	学校が鑑賞での活用を計画できるように、企画展等の案内を行い周知を図る必要があります。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		B			

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題 7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算・決算)	【63】美術館運営管理事業（生涯学習課：美術館係） (予算：33,637千円 決算：32,378千円)				
目的	市民が文化芸術活動、芸術鑑賞及び憩いの場として、美術館及び公園を快適かつ安心して利用できるよう施設等の運営管理を行います。				
事業内容	美術館及び公園の維持管理を図るとともに、適切な環境の中で収蔵、展示作品の保存管理を行います。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 ・敷地内で美術館の駐車場の場所をわかりやすくする必要があります。 ・碓井庁舎前駐車場内にある看板の活用を図ります。 ・美術館の周知と集客を図る必要があります。 【課題等への取り組み】 敷地内に駐車場の誘導看板を設置し、碓井庁舎前駐車場内の懸垂幕を固定看板に取替える事で、美術館の周知及び利用者の利便性を図りました。 美術館専用ホームページによる情報発信や織田廣喜美術館フレーム切手の作成により、広く周知を図りました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 敷地内に駐車場の誘導看板を設置することで、駐車場の場所がわかりやすくなりました。また、美術館内においてもトイレの照明をセンサー式に替え、クリンドライを設置するなどにより、利用者の利便性を図ることができました。 美術館及び事業の周知につきましては、美術館専用ホームページによる情報発信をはじめとして、碓井庁舎前駐車場内懸垂幕の固定看板への取替えや、織田廣喜美術館フレーム切手を作成し販売することで、広く周知を図ることができました。 また、昨年度に引き続き統合準備が進む嘉穂地区の小学校において、所蔵美術品等の調査を行い、実態の把握を行いました。				
今後の方向性	美術館及び公園を快適かつ安心して利用できるよう、継続して施設等の維持管理に努めるとともに、利用者の利便性を図ります。				
H25年度の課題	経年劣化に伴う修繕など施設の維持管理に努めるとともに、利用者が快適に利用できる環境の整備を図ります。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		A			

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題 7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算・決算)	[64] 企画展事業 (生涯学習課：美術館係) (予算：10,279千円 決算：10,279千円)				
目 的	著名な作家や郷土ゆかりの作家の作品展示及び優れた芸術作品の鑑賞機会を提供することにより、心豊かな感性を育み文化の向上を図ります。				
事業内容	館蔵品展、郷土作家展、夏季企画展の6展を開催しました。 「春のコレクション展 2012」 4月 1日～ 4月 8日(7日間) 「第10回嘉飯山の画家たち展」 6月23日～ 7月29日(32日間) 「大河原邦男展」 8月18日～10月 8日(45日間) 「第68回福岡県美術展覧会筑豊巡回展」 11月 6日～11月11日(6日間) 「冬のコレクション展(織田廣喜追悼展)」12月 6日～ 1月30日(42日間) 「春のコレクション展 2013」 3月 7日～ 3月31日(22日間)				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 ・新たな作家の掘り起こしや、美術館を周知し集客を図る必要があります。 ・著名な郷土の作家展を開催し、鑑賞機会を提供する必要があります。 ・県展会場(美術館開催)について協議を深める必要があります。 【課題等への取り組み】 夏季企画展では、人気アニメ等のメカデザインで知られる「大河原邦男展」を開催し、従来来館者としての比率が低かった30～40代の男性をはじめとして、遠方からも集客を図ることができました。また、冬のコレクション展は、織田廣喜氏の逝去に伴い「織田廣喜追悼展」を実施しました。 県展は、今年度新たに書部門を第2会場である織田廣喜美術館で開催し、同展の内容がより充実しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 「嘉飯山の画家たち展」では、新たな関連事業として、市内小学校への出前授業や来場鑑賞会などを実施し、児童が地域の美術家と触れあえる機会を提供できました。 「大河原邦男展」は、大変好評で入館者が大幅に増加しました。また、新規や遠方からの来館者が多く、織田廣喜美術館の周知を図ることができました。 また、「織田廣喜追悼展」では、著名な郷土の作家の作品を鑑賞する機会を提供し、改めてその魅力を伝えることができました。 県展は、新たに「書」の展示ができたことや、入場者が増加したことなど、市民に様々な作品を鑑賞する機会を提供することができました。				
今後の方向性	今後も継続して優れた作品の鑑賞機会を提供していきます。 県展は、関係団体等との協議を重ね、来年度から美術館での開催となります。				
H25年度の課題	県展の美術館開催にあたり、各部門の筑豊地区会員に協力要請を行い、県展筑豊巡回展実行委員会を立ち上げる必要があります。				
『評価委員の意見』 ・「嘉飯山の画家たち展」の画家の選考基準を明確にしたほうが良いと思う。					
教育委員会評価		A			

○重要課題 7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算・決算)	[65] 美術館ボランティア事業 (生涯学習課：美術館係) (予算： 30千円 決算： 12千円)				
目 的	子どもたちの美術活動の充実と、美術館の活動に関わる人材の育成を図ります。				
事業内容	ボランティア会議やジュニア美術学科等の打合せ及び事前学習。 ジュニア美術学科における子どもたちへのサポート。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 ・新たにボランティア登録者の募集を行います。また、活動を通して資質の向上を図ります。 ・ボランティア活動の資質の向上を図り、市報等で募集を行う必要があります。 【課題等への取り組み】 市の広報及びホームページでボランティアの募集を行いました。 ボランティア会議や講座の事前学習においてスキルアップを図り、ジュニア美術学科で子どもたちの学習支援を行いました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ボランティアの新規登録者が増え、子どもたちへのサポートが行き届くようになりました。 また、ボランティア間においてもコミュニケーションが図られ、美術館での活動の中においてお互いに意識を高めあうことができました。				
今後の方向性	今後も継続して、子どもたちへの学習支援の充実と、美術館の活動に関わる人材の育成を図ります。				
H25年度の課題	新たなボランティアの募集を行い、子どもたちへの学習支援を通じて資質の向上を図ります。				
『評価委員の意見』 ・人材バンクボランティアと情報を共有することも必要ではないかと思う。					
教育委員会評価		B			

○重要課題 7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算・決算)	【66】美術教育普及事業 (予算：534千円 決算：448千円)				
目 的	楽しみながら創作活動を行う機会や場の提供を行い、芸術への興味を深め豊かな感性と表現力を育むことにより、美術教育の充実を図ります。				
事業内容	7講座を開設しました。(大人：3講座、子ども：4講座) ・写真講座(前期・後期) 16回 18歳以上 受講者29名 ・手描き染色体験講座 5回 高校生以上 受講者10名 ・美術講座 1回 年齢制限なし 受講者14名 ・ジュニア美術学科 12回 小学校1・2年生 受講者26名 ・オダビアートクラブ 5回 小学校3～6年生 受講者14名 ・わくわくアトリエクラブ①② 2回 4～8歳までの子どもとその保護者 受講者45名 ・なつやすみ絵画教室(低学年・高学年) 2回 小学生 受講者27名				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 ・オダビアートクラブは、一貫した流れで学べる内容で行う必要があります。 ・写真講座は、受講者の技術等に差があり、初級と経験者と分けて実施する必要があります。 【課題等への取り組み】 オダビアートクラブは、年間を通して共通の目標課題のもとに講座を開設しました。また、写真講座は、「前期(初級)」「後期(中級)」に分けたことにより、受講生の技術に合った内容で講座を実施できました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 写真講座は、野外撮影会や鑑賞会を通し、お互いを高め合う学びの場となり、講座終了後も自主サークルに移行して学びが継続されています。 手描き染色体験講座は、受講希望者の年齢層が広く、内容も好評でした。 ジュニア美術学科では、ボランティアの支援により全体に目が行き届き、子どもたちは楽しく学ぶことができました。 わくわくアトリエクラブ第1回目は、九州国立博物館との連携により異文化体験ができました。また第2回目は、親子で協力しながら作品作りをすることで、大切な時間を共有できました。				
今後の方向性	今後も継続して、子どもから大人まで楽しく学べる美術教育の充実を図ります。				
H25年度の課題	より充実した内容となるよう、講座の募集や開設方法について検討します。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価			B		

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題7 市民文化の創造

(2) 文化財の保護・継承・活用

事業名 (予算・決算)	[67] 歴史民俗教育普及事業 (生涯学習課：文化財係) (予算：4,318千円 決算：4,213千円)				
目的	様々な文化財や関係資料を活用し、地域の歴史や文化への理解と関心を深めるとともに、文化財の保護継承の重要性について周知を図ります。				
事業内容	・山本作兵衛展～嘉麻市コレクションから見るヤマの世界～ 5月 3日～6月17日 ・戦争体験者が伝えるもの～香椎敬介版画『終戦忌』を中心に 7月31日～8月22日 ・語り、伝える戦争の話 8月18日 ・古代「ミヤケ」の国際的シンポジウム 11月10日 ・沖出古墳同時公開（春・秋） 4月14日・15日 10月20日・21日				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 ・市所蔵山本作兵衛原画の保存、活用と平和の火の活用を図る必要があります。 ・「鎌（嘉麻）の屯倉」に関する古代シンポジウムの広域連携事業を図ります。 【課題等への取り組み】 ・世界記憶遺産の関連として美術館で原画展を開催しました。（57点展示） ・平和祈念館で企画展を開催し、関連事業として戦争体験者の話を聞きました。 ・掘ったバイ筑豊2012のシンポジウムとして「6世紀の九州島 ミヤケと渡来人」を開催しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ・山本作兵衛原画展（40日間）には1,946人もの来館者があり、原画の魅力を通してヤマの世界を伝えることが出来ました。 ・祈念館での企画展には、388人（市外285人）来館者があり、平和イベントでは戦争体験者の生の声を聞く機会を提供することが出来ました。 ・広域市町村と連携開催したシンポジウムには、128人の参加者（市外97人）があり、遠賀川流域の古墳同時公開（沖出古墳）には312人（市外112人、県外72人）が訪れ、古墳を見学し学びを深めることが出来ました。				
今後の方向性	・今後も、県内でも数少ない平和祈念館や収蔵資料の活用を図りながら、「平和」について考える企画展を継続実施します。 ・講座等の内容充実を図ります。				
H25年度の課題	・整理を終えた碓井平和祈念館収蔵資料の活用を図ります。 ・講座等の新企画を始めます。 ・小中学校での活用を促します。				
『評価委員の意見』 評価委員の意見は、ありませんでした。					
教育委員会評価		A			

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

○重要課題 7 市民文化の創造

(2) 文化財の保護・継承・活用

事業名 (予算・決算)	[68] 文化財保護事業 (生涯学習課：文化財係) (予算：10,358千円 決算：9,758千円)				
目的	指定文化財の維持管理及び保存修理を支援し、保護と継承を図るとともに、施設等の維持管理に努めます。また、開発事業者との事前調整、埋蔵文化財の調査、資料整理等を行います。				
事業内容	- 指定文化財の維持管理および補助、助成と歴史民俗資料展示、保管施設等の維持管理を行います。 - 開発事業者との事前調整（調査）および埋蔵文化財等の調査を行います。 - 発掘調査出土品の(再)整理を行います。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 - 沖出古墳出土資料の再整理が必要です。 - 碓井郷土館「収蔵庫」の空調機自動制御装置の修理が必要です。 【課題等への取り組み】 - 県指定史跡「沖出古墳」出土品の再整理に着手しました。 - 収蔵庫の修理を行いました。				
自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 - 県指定史跡「沖出古墳」出土品の再整理に着手することが出来ました。 - 指定文化財の維持管理、継承に努めることが出来ました。 - 開発事業者と年間96件（立会い調査4件、試掘調査3件を含む）の事前調整を円滑に行うことが出来ました。 - 碓井郷土館「収蔵庫」の空調修理により快適環境の中で資料の維持管理が可能となりました。その他の施設等についても維持管理に努めました。				
今後の方向性	- 今後も継続して指定文化財や施設等の維持管理に努めるとともに補助、助成を行います。 - 開発事業者との事前調整（調査）を円滑に進め、文化財保護に努めます。 - 出土品の（再）整理を継続して行います。				
H25年度の課題	- 沖出古墳出土品の再整理を継続します。 - 指定文化財説明板等の把握と板面の掃除を行い、見学者に配慮します。 - 登録有形文化財建造物の登録手続きを進めます。				
『評価委員の意見』 各地区に分散している文化財を一箇所で保存すべきであるとする。					
教育委員会評価		A			

○重要課題 7 市民文化の創造

(2) 文化財の保護・継承・活用

事業名 (予算・決算)	【69】歴史民俗資料展示・保管施設の管理活用事業 (生涯学習課：文化財係) (予算：4,412千円 決算：4,387千円)				
目的	資料展示・保管施設の位置付けを明確にし、整備と活用を図ります。また収蔵資料の整理を行い、内容把握とその活用に結びつけます。				
事業内容	・収蔵資料の整理と台帳作成（データ化）を行います。 ・歴史民俗資料展示、保管施設の統廃合等の及び中核施設の整備を検討します。				
H24年度の課題と取り組み	【課題等】 ・碓井平和祈念館の資料整理を終え、碓井郷土館等の資料整理にとりかかる必要があります。 ・施設検討部会を設置し、施設の機能、現状調査を行う必要があります。 【課題等への取り組み】 ・碓井平和祈念館収蔵資料の台帳作成（データ化）を終え、碓井郷土館の古文書資料整理に着手しました。 ・文化財保護審議会内に施設検討部会を設置し部会を開催しました。				
事務局 自己評価	評価項目	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ・碓井平和祈念館の収蔵資料約6000点の整理分類と台帳作成（データ化）により点数や内容、状態等の把握ができ、今後、活用を図ることが出来るようになりました。 ・県内でも数少ない戦争関係資料を有する平和祈念館ならびに嘉麻市の考古・歴史資料を展示した碓井郷土館の活用に向け施設の見学を行い、現状説明を行うことが出来ました。				
今後の方向性	・収蔵資料の整理と台帳作成（データ化）を継続します。 ・歴史民俗資料展示、保管施設の統廃合等及び整備の検討を行います。				
H25年度の課題	・碓井郷土館所蔵古文書の整理と台帳作成（データ化）と整理資料の活用を図ります。 ・施設の位置付け、整備の検討と文化財保護審議会（施設検討部会）での意見の集約に努めます。				
『評価委員の意見』 ・学校等で資料を活用するための、活用方法等の情報の提供が必要である。					
教育委員会評価		A			

A 期待通り、B 概ね期待通り、C 課題あり、D 事業の見直し要

5. 全体評価結果

(1) 全体評価結果

全体評価結果については、事務局の自己評価と評価委員の意見をふまえた教育委員会の評価結果は下記のとおりとなりました。(全69事業)

	前年度教育委員会評価		教育委員会評価
A：期待通り	18事業 (29.5%)	⇒	30事業 (43.5%)
B：概ね期待通り	43事業 (70.5%)	⇒	39事業 (56.5%)
C：課題あり	0事業 (0.0%)	⇒	0事業 (0.0%)
D：事業の見直し要	0事業 (0.0%)	⇒	0事業 (0.0%)

今回の評価の方法は、昨年度と同様に事業完了度ではなく、目的達成度の観点から総合的に評価を行いました。第三者評価を含んだこれらの評価手法については、客観的な評価が実施できるように、引き続き改善に努めてまいります。

実施事業の全体的な年度比較では、「A評価」が29.5%から43.5%（14ポイント増）へ、概ね期待通りの「B評価」が70.5%から56.5%（14ポイント減）へ、課題ありの「C評価」及び事業の見直し要の「D評価」の事業は、昨年同様に0%で、全体の評価傾向としては、向上していると考えております。

これは、事業を計画する際に、前年度の点検評価による課題等を十分に考慮し、事前調査や検討を行った結果であると思料します。

しかしながら、まだまだ課題も多く、改善を必要とする事業もあり、今後も引き続き、更なる事業内容の検討を図る必要があります。

(2) 重要課題ごとの評価及び課題

○ 重要課題1「少人数指導等による学力向上」

児童・生徒に応じたきめ細かな指導を行う「少人数指導推進事業」や、教職員の実践的指導力の向上を図る「研究指定校補助事業」の取組みについては、計画どおりの事業が実施できました。

また、学力実態調査を実施し、各学校の学力の実態を分析し、さらなる学力向上に向けた組織的な取組みを行う学校が増加しています。

今後は、更に学校と保護者等が連携を取り合い、学力向上の基盤づくりに取組むとともに、学校においては、学力向上コーディネータを中心に組織的な取組みを推進します。

○ 重要課題2「個性又は能力を育成する学校教育の充実」

「特別支援教育総合推進事業」については、学校教育課だけではなく、健康課やこども育成課と横の連携を取りながら、早期対応を図っていることに対し、高い評価

をいただきました。今後は、内容を十分に検証し、事業を推進します。

また、「学校防犯体制整備事業」については、行政だけではなく、登下校時の見守りなど、地域住民との連携が課題です。

- 重要課題3「豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進」
「ボランティア活動推進事業」については、道徳性や自律性を育むための大切な事業であり、今後は、地域社会と連動した活動を行う必要があります。

不登校問題等の解決の取組みとして、「教育相談推進事業」や「ひきこもり訪問指導員配置事業」を実施し、不登校傾向の児童生徒に対する早期対応や不登校の解消、改善に取組み、前年度より若干減少しました。今後も継続してこの事業を実施、不登校問題の解決に努める必要があります。

- 重要課題4「生涯学習の実現を目指す社会教育の推進」

社会教育関係団体の育成、公民館活動の活性化や青少年育成等、全てにおいて地域住民との連携が大切です。そのため、指導者や後継者の育成を推進し、地域の力を向上することが課題です。

- 重要課題5「体力及び運動能力向上の推進」

公立保育園で実施した運動指導については、今後も継続し、更に小、中学校へ事業の拡大を期待する旨の評価をいただきました。今後も、子ども育成課やNPO法人と連絡調整を取りながら、事業の拡充を図ります。

スポーツ大会支援事業については、他の課と横の連携も取りながら、幅広い年齢層を対象とした事業の開催が課題です。

- 重要課題6「人権尊重精神を育成する教育の推進」

地域・企業・団体・サークル等、個別的な研修会を多数開催し、住民の人権意識の向上に努めました。今年度は、行政区単位の研修が昨年度に比べ9団体増加しました。引き続き、啓発事業を実施し、市民の人権意識の高揚を図る必要があります。

- 重要課題7「市民文化の創造」

美術館事業については、県展筑豊巡回展の拡充が図られ、今後更なる事業の充実を期待する評価をいただきました。

文化財事業については、各地区に保存されている収蔵品や歴史的民俗資料の整理及び統合が課題です。

(3) おわりに

今回点検した教育委員会の事業は、「第2次嘉麻市教育アクションプラン」の具体的な数値目標と、それに対応した行動計画として策定しており、計画的かつ効率的に諸施策を着実に進めている状況です。

また、市民の点検評価委員のみなさまからは評価に対する指摘、改善策、貴重な意

見等を頂きました。これらの貴重な意見を事業に活用し、今後の嘉麻市教育行政の発展に役立てていきたいと思いをします。

最後に、今回点検評価に参加・ご尽力くださいました委員の皆様に心よりお礼を申し上げ、点検・評価報告書のまとめとさせていただきます。

《 資 料 》

嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱

[平成 2 1 年嘉麻市教育委員会要綱第 6 号]

[平成 2 3 年嘉麻市教育委員会要綱第 4 号]

[平成 2 4 年嘉麻市教育委員会要綱第 3 号]

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 3 1 年法律第 1 6 2 号）第 2 7 条及び嘉麻市教育基本条例（平成 2 2 年嘉麻市条例第 1 6 号。以下「条例」という。）第 7 条の規定に基づき、嘉麻市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する事務の点検及び評価について、必要な事項を定めるものとする。

(点検評価事項)

第 2 条 教育委員会は、前年度の教育委員会の事務の管理及び執行の状況について、次に掲げる事項の点検及び評価（以下「点検評価」という。）を行う。

(1) 教育委員会の会議の実施状況等に関すること。

(2) 教育委員会の主要な施策に関する執行の状況及びその成果に関すること。

(点検評価の方法)

第 3 条 教育委員会は、点検評価を実施するに当たり、別に定める評価表により教育委員会事務局において、その所管する事務事業等の自己評価を行わせるものとする。

2 教育委員会は、前項の自己評価の結果について評価の客観性を確保するため、嘉麻市教育委員会点検評価委員（以下「評価委員」という。）を設置する。

3 教育委員会は、評価委員の意見を踏まえ、教育委員会の会議において最終的な点検評価を行う。

(評価委員)

第 4 条 評価委員は、1 0 人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

(1) 嘉麻市議会議員

(2) 嘉麻市 P T A 連合会委員

- (3) 嘉麻市社会教育委員
 - (4) 嘉麻市公民館運営審議会委員
 - (5) 嘉麻市立図書館協議会委員
 - (6) 嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会委員
 - (7) 嘉麻市スポーツ推進委員
 - (8) 嘉麻市文化財保護審議会委員
 - (9) その他教育委員会が適当と認める者
- (公表の方法)

第5条 教育委員会は、条例第7条の規定により点検評価の結果に関する報告書は次に掲げる方法で公表する。

- (1) 嘉麻市公式ホームページに掲載
 - (2) 報道機関に提供
 - (3) 教育分室等での閲覧
- (庶務)

第6条 点検評価の実施に関する庶務は、教育部学校教育課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、点検評価の実施に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この要綱は、平成21年7月8日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月5日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から適用する。

平成 2 5 年度嘉麻市教育委員会点検評価委員名簿
(評価対象年度・・・平成 2 4 年度)

(敬称略)

	団 体 名	氏 名	備考
1	嘉麻市議会	田淵 千恵子	
2	嘉麻市 P T A 連合会	荒川 孝子	
3	嘉麻市社会教育委員	井上 由彬	
4	嘉麻市公民館運営審議会	林田 浩一	
5	嘉麻市立図書館協議会	伊藤 恵美香	
6	嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会	坂口 美代子	
7	嘉麻市スポーツ推進委員	山方 国和	
8	嘉麻市文化財保護審議会	香月 靖晴	
9	その他教育委員会が適当と認める者	浅田 勉	

嘉麻市教育委員会点検・評価報告書
(平成24年度事業分)

発 行 嘉麻市教育委員会
(お問い合わせ先)

嘉麻市教育委員会教育部学校教育課

〒820-0392 福岡県嘉麻市大隈町733番地

T E L 0948-57-3198

